YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TRACER 9 GT+

モーターサイクル

TRACER 9 GT+ (MTT890D-K)

BLG-28199-J1 ●

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
スマートフォン連携システム 4
各部の取り扱いと操作 5
日常点検 6
運転操作 7
点検整備 8
お車の手入れ 9
製品仕様 10
ユーザー情報 11
索引 12

商標について

Bluetooth® のワードマーク及びロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。
Android™、Google Play 及び Google Play ロゴは Google LLC の商標です。
iOS は、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
あなた自身と同乗者のために.....1-1
歩行者と他の車のために 1-5
環境・住民の方との調和のために.....1-6

各部の名称 2-1
左側面 2-1
右側面 2-2
運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
ミリ波レーダー.....3-1
ACC（アダプティブクルーズ
コントロール）システム.....3-1
ACC システム作動中の
ライダー介入リクエスト.....3-5
アダプティブクルーズコントロール
（ACC）システムの操作 3-5
ブレーキシステム 3-9
YRC
（ヤマハライドコントロール）.....3-12

スマートフォン連携システム 4-1
スマートフィーチャー.....4-1
初期設定 4-3
ナビゲーションシステム：Garmin
Motorize 4-7
電話.....4-8
接続エラーが発生したときは.....4-9

各部の取り扱いと操作 5-1
キーの取り扱い.....5-1
イモビライザーシステム 5-1
メインスイッチ 5-2
ハンドルスイッチ 5-3
警告灯と表示灯 5-5
ディスプレイ..... 5-8
ポップアップメニューシステム..... 5-14
シフトペダル..... 5-30
フューエルタンクキャップ 5-31
燃料..... 5-32
シート 5-32
ライダーシートの高さ調整..... 5-33
ライダーフートレスト位置の調整 ... 5-36
ヘルメットホルダー..... 5-36
書類入れ..... 5-36
小物入れ..... 5-37
ウインドスクリーン 5-37
ハンドル位置の調整..... 5-38
サイドケースホルダー 5-38
フロントフォークおよび
リヤクッションの調整..... 5-38
荷掛けフック..... 5-40
ブレーキレバーの握り調整..... 5-40
DC コネクター 5-40
USB ジャック 5-41
ETC コネクター 5-41
サイドスタンド 5-42
コーナリングライト..... 5-42
イグニッションサーキット
カットオフシステム 5-42

日常点検.....6-1
日常点検の実施 6-1
日常点検箇所／点検内容..... 6-1

運転操作.....7-1
ならし運転.....7-1
エンジン始動 7-1
ギヤチェンジのしかた.....7-2
ブレーキ 7-3
駐車 7-4

点検整備.....8-1
点検整備の実施 8-1
サービスツール 8-2
エンジンオイル 8-2
エンジンのかかり具合、
異音の点検 8-3
低速、加速の状態の点検 8-4
冷却水.....8-4
エアクリーナーエレメントの交換.....8-5
タイヤ.....8-5
クラッチ 8-7
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検.....8-8
ブレーキランプスイッチの点検 8-8
ブレーキパッドの点検.....8-8
ブレーキ液量の点検 8-9
ドライブチェーン.....8-10
ドライブチェーンの給油 8-11
バックミラー 8-11
車体各部の給油脂状態の点検.....8-12
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム）.....8-12
バッテリー.....8-12

ヒューズ交換 8-14
灯火装置および方向指示灯の点検 8-16
運行において異常が認められた
箇所の点検 8-17

お車の手入れ 9-1
洗車 9-1
アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い 9-2
ウインドスクリーンの取り扱い 9-2
保管のしかた 9-3
アフターケア用品について 9-3

製品仕様 10-1

ユーザー情報 11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル（別売）の
紹介 11-2
車両情報 11-2

索引 12-1

安全運転のために

JAU27281

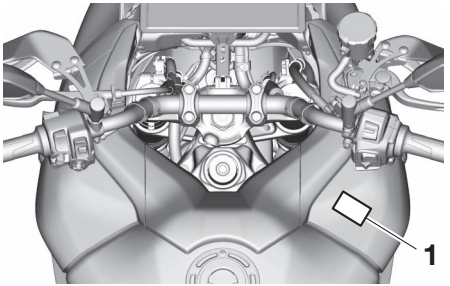
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

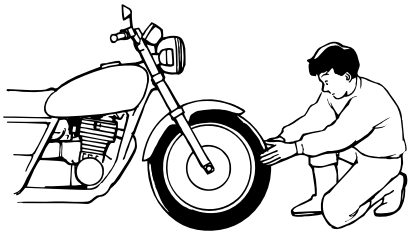
JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



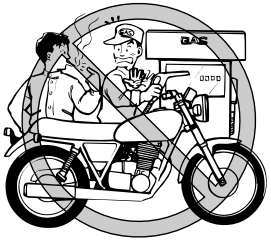
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

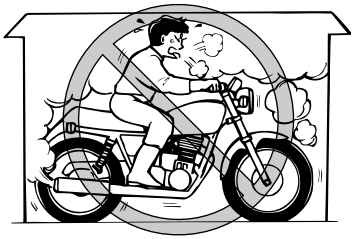
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

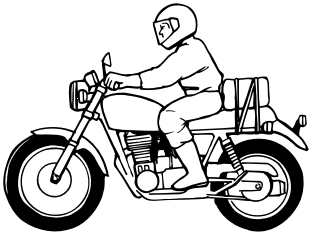


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



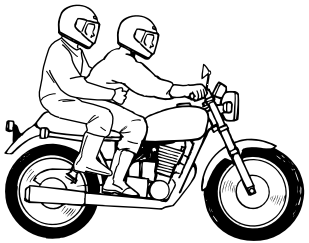
荷物はしっかり固定する



- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。

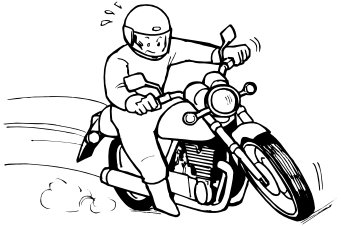


乗車定員は２名

ただし、免許取得後１年未満の運転者は、法令により２人乗りはできません。

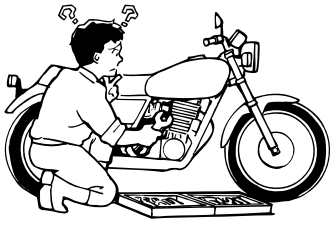
また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

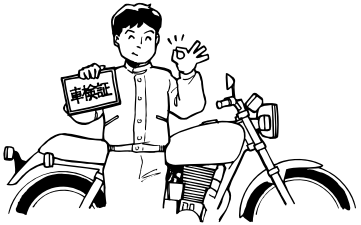


JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける
二輪の小型自動車（251cm³ 以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



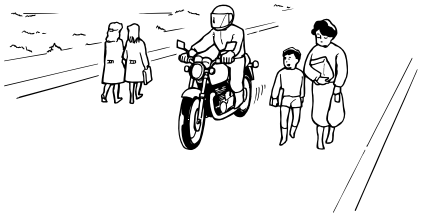
1

歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



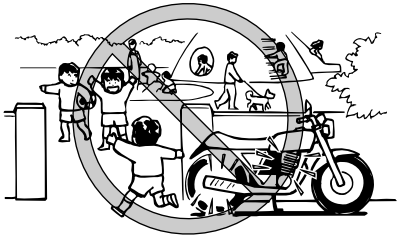
駐車

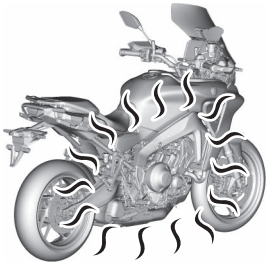
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

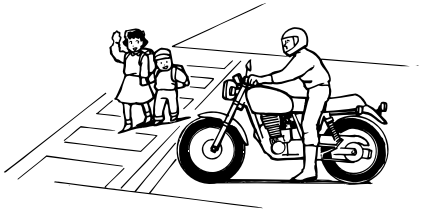
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

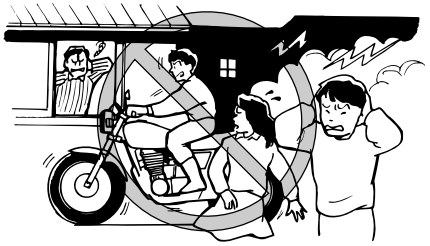
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

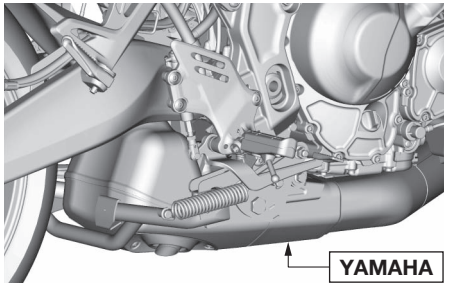


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。



環境への配慮

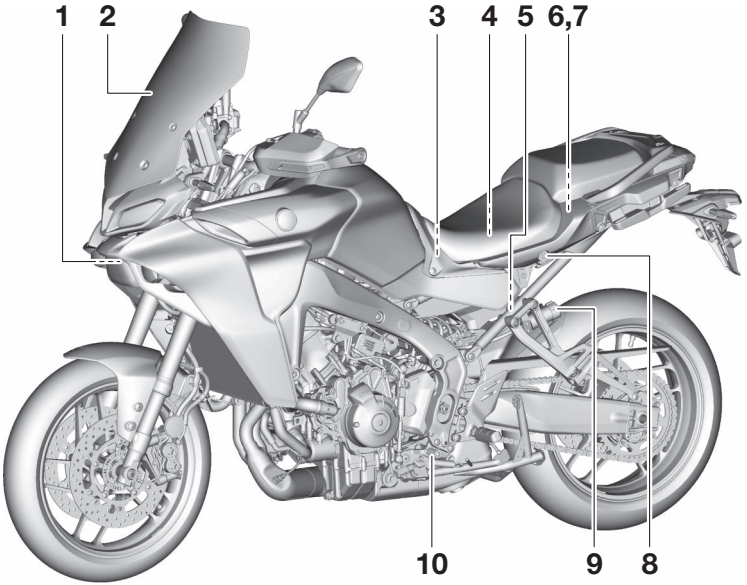
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10411

左側面

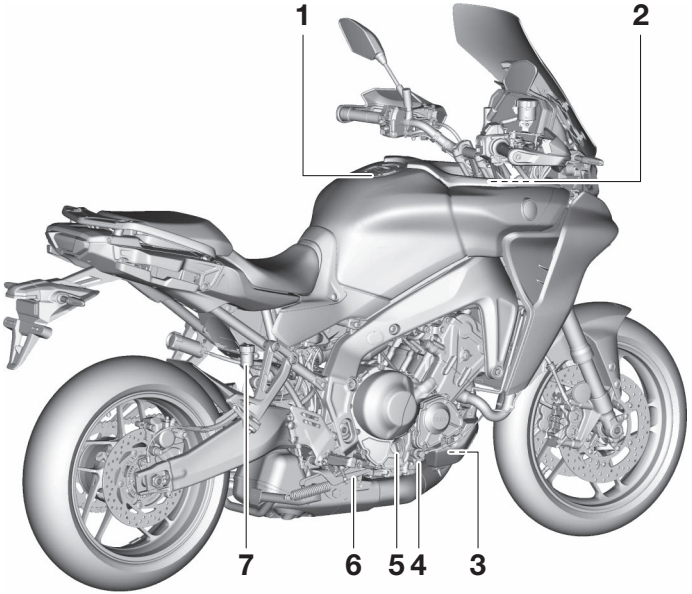
2



1. ミリ波レーダーユニット (P3-1)
2. ウインドスクリーン (P5-37)
3. バッテリー（P8-12）
4. ヒューズ（P8-14）
5. ヘルメットホルダー（P5-36）
6. 小物入れ（P5-37）
7. サービスツール（P8-2）
8. シートロック（P5-32）
9. スプリングプリロードアジャスター (P5-38)
10. シフトペダル（P5-30）

JAU10421

右側面



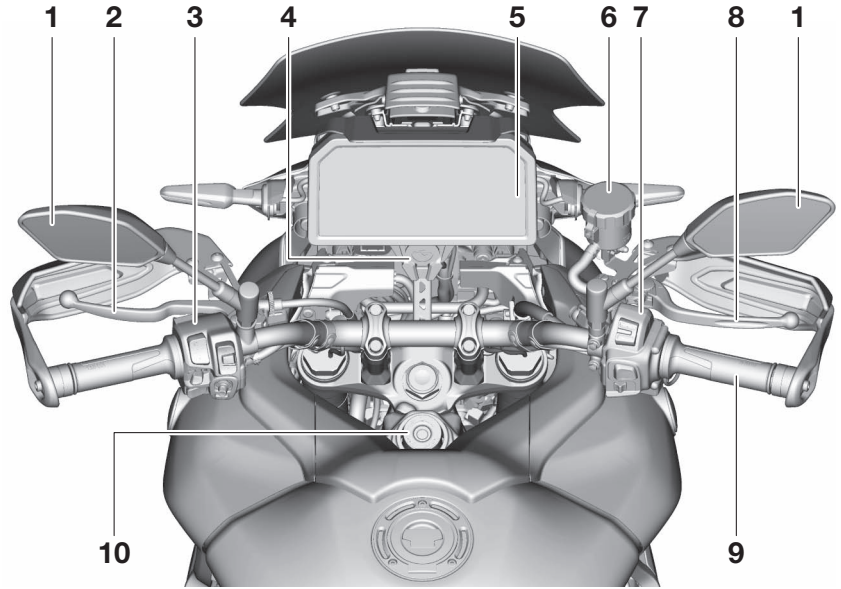
1. フューエルタンクキャップ（P5-31）
2. スプリングプリロードアジャスター (P5-38)
3. リカバリータンク（P8-4）
4. エンジンオイル点検窓（P8-2）
5. オイル注入口（P8-2）
6. ブレーキペダル（P8-8）
7. リヤブレーキリザーバータンク（P8-9）

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類

2

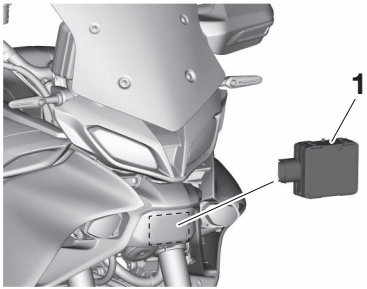


1. バックミラー (P8-11)
2. クラッチレバー（P8-7）
3. ハンドルスイッチ（左）（P5-3）
4. USB ジャック (P5-41)
5. ディスプレイ (P5-5/P5-8)
6. フロントブレーキリザーバータンク（P8-9）
7. ハンドルスイッチ（右）（P5-3）
8. ブレーキレバー（P8-8）
9. スロットルグリップ
10. メインスイッチ / ハンドルロック（P5-2）

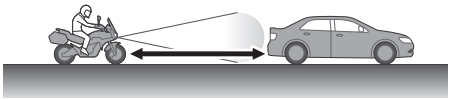
JAUA0484

ミリ波レーダー

この車両は、車両前方にミリ波レーダーユニットを搭載しています。レーダーは前方の車両との距離を検出して測定しており、ACC システム（3-1 ページ参照）やレーダー連携 UBS（3-9 ページ参照）の制御を可能にします。



1. ミリ波レーダーユニット



JWA22460

⚠ 警 告

- **ミリ波レーダーユニットの周りに、ステッカーを貼ったり、塗料を塗ったりしないでください。ACC システムやレーダー連携 UBS が正常に作動しない恐れがあります。またミリ波レーダーユニットの周囲に、検知を妨げるものがないことを確認してください。車両前部周辺にアクセサリーを取り付けたり、改造したりすると、ミリ波レーダーの検知を妨げる場合があります。**
- **事故や転倒の際、ミリ波レーダーの位置がずれたりして、正しく作動しないことがあります。ヤマハ販売店で点検を受けてください。**

JAUA0419

ACC（アダプティブクルーズコントロール）システム

JWA22571

⚠ 警 告

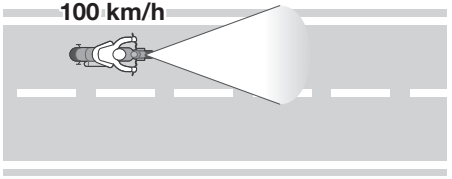
- **ACC システムは、ライダーの快適性を高め、疲労軽減を目的としています。安全や衝突回避のためのシステムではありません。安全運転を行う責任はライダーにあります。ライダーは常に周囲の環境や交通状況を把握し、車両を積極的に操作して安全に減速および加速する必要があります。**
- **ACC システムは、高速道路のような長く直線的な道路で最も効果を発揮します。またライダーが周囲の交通環境を把握する代わりにはなりません。**

この車両は、先行車との適切な距離を保持して追従するための ACC システムを装備しています。

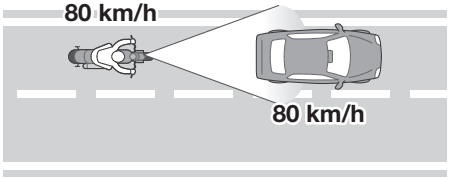
ACC システムは、装備されたミリ波レーダーユニットで先行車を検知し、エンジン、ブレーキ、電子制御サスペンションを自動的に制御して、設定された車間距離を維持します。

ACC システムが作動すると、次のように走行速度が制御されます。

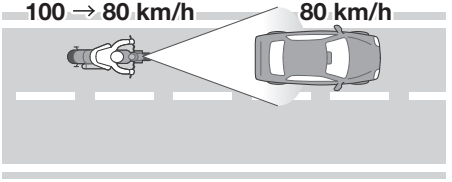
- 先行車がいないときは、設定したクルージングスピードで走行します。



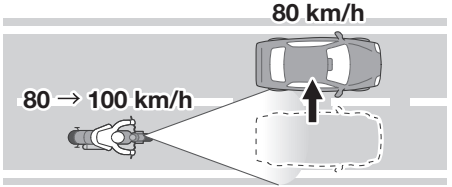
● 先行車を捕捉しているときは、設定したクルージングスピードを超えない範囲で、先行車の速度に合わせて加速や減速を行います。



● 自車両より遅い先行車を捕捉したときは、先行車の速度に合わせて減速します。



● 設定したクルージングスピード以下で走行中、先行車がミリ波レーダーの検知から外れたときは、設定したクルージングスピードまで加速します。



JWA22393

⚠警 告

● ACC システムは、周囲の環境や交通状況によっては、ライダーの予期しない加速や減速をすることがあります。ライダーはいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。

● 速度と車間の設定は、交通ルールにしたがってください。

● 天候や交通状況に合わせて、いつでも無理なく減速できる車間設定にしてください。

● ACC システムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。ACC アイコン “ ” が消えていることを確認してください。

● ACC システムは、周囲の状況によっては先行車の動きを捕捉できないことがあります。次のような場合は、ACC システムの使用中でも、状況に応じて自身で車両の制御を行ってください。

- **他車両が急に割り込んできたとき**
- **先行車が急ブレーキをかけたとき**
- **先行車との速度差が非常に大きいとき**

● 次のような場合、周囲環境によってミリ波レーダーが正しく反応しないことがあります。

- **電磁波の干渉がある場所**
- **トンネル**
- **ガードレールの近く**
- **大雨、雪、あられなど**
- **工事現場**

● 次のような場合は、ACC システムを使用しないでください。ACC システムが正しく作動せず、事故につながる可能性があります。

- **歩行者や自転車の通行がある道**

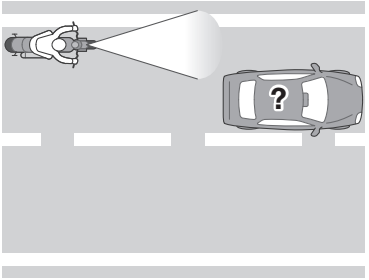
- **交通量が多く、車線変更が多く行われる状況**
- **悪天候時**
- **カーブの多い道**
- **滑りやすい道**
- **凹凸のある道**
- **砂利道**
- **工事中の道路**
- **一般公道以外**

JWA22580

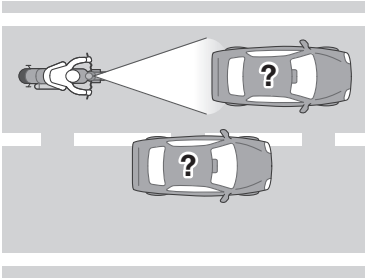
⚠警 告

次のような場合、ACC システムが先行車を正確に捕捉できないことがあります。
- **車両が車線の端を走行している**
- **前方の車両が車線の左、または右に寄って走行している**
- **ハンドル操作が不安定で蛇行運転をしている**
- **車両が後方に傾斜し、上向きになっている（最大積載量を超える荷物を積んでいる）**
- **隣の車線の車両が、自車線寄りに走行している**
- **急な上り坂、または下り坂を走行している**

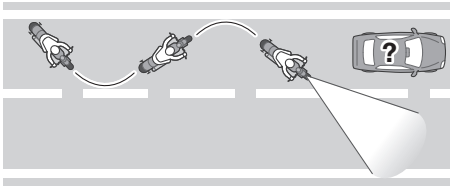
車線の端に寄って走行



隣の車線の車両が、自車線寄りに走行



蛇行運転（不安定な運転）



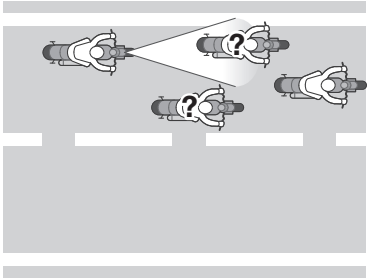
JWA22520

⚠警 告

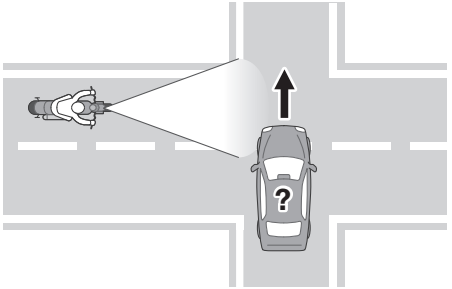
次のような場合、同一車線上にあっても検知できなかったり、誤って検知することがあります。
- **道路上に駐車している車両、渋滞で停止している車両**
- **静止しているもの（トンネル、ガードレール、料金所など）**
- **歩行者、自転車、動物**
- **二輪車（千鳥走行含む）**
- **特殊な形状の車両（背の高い車両や荷台の長い車両など）**
- **飛んでいるもの（ボール、ビニール袋、缶などの金属容器）**
- **眼の前を横切る車両**

車両の特徴

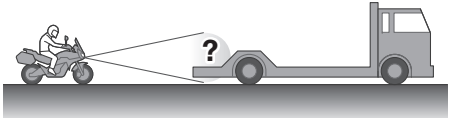
千鳥走行（レーダー捕捉対象が入れ替わる）



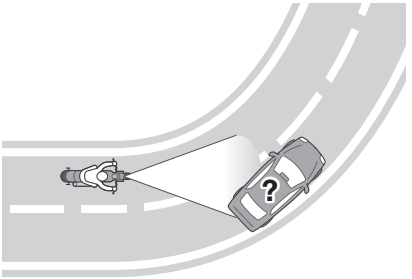
眼の前を車両が横切る



特殊な形状の車両



急カーブ



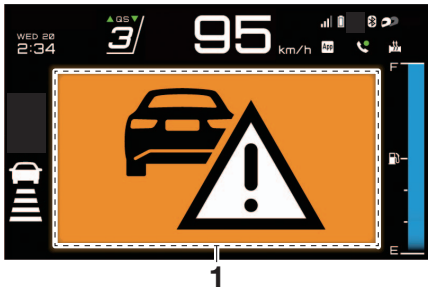
JWA22500

⚠警 告

ACC システムが先行車を見失ったり、誤ったものを捕捉してしまうと、設定されているクルージングスピードまで加速したり、減速する可能性があります。特に、急なカーブや曲がりくねった道では、先行車がミリ波レーダーから外れたり、隣の車線の車両を捕捉してしまう場合があります。

JAUA0493

ACC システム作動中のライダー介入リクエスト



1. ライダー介入リクエスト

ディスプレイの表示画面が変わり、ライダー介入リクエストが表示されたら、すぐに状況を確認して自身で車両の制御を行ってください。ライダー介入リクエストは、次のような場合に表示されます。

- 先行車に近づきすぎた場合
- 先行車の速度に対して、自分の速度が速すぎる場合

BC（ブレーキコントロール）がオンのとき

- 先行車に近づきすぎた場合
- レーダー連携 UBS のブレーキアシスト機能により、強いブレーキがかかった場合

JWA22540

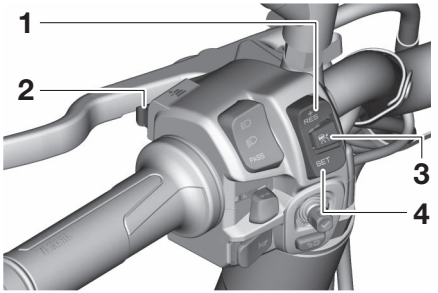
警告

ライダー介入リクエストは、すべての状況下で表示されることを保証するものではありません。周囲の状況によっては、表示されなかったり、遅れたりすることがあります。常に周囲の環境や交通状況を把握し、いつでも自身で車両を操作できるようにしてください。

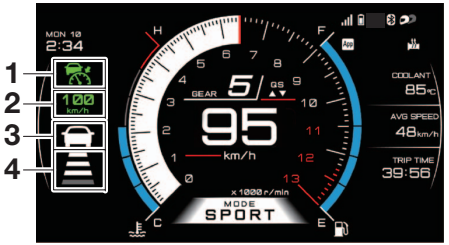
JAUA0764

アダプティブクルーズコントロール（ACC）システムの操作

ACC システムの作動と設定



1. ACC 設定スイッチ “RES”
2. ACC 車間設定スイッチ “”
3. ACC 起動スイッチ “”
4. ACC 設定スイッチ “SET”

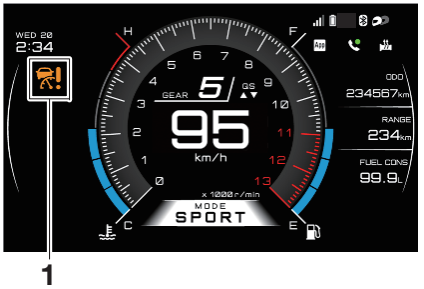


1. ACC アイコン “”/“”
2. ACC 速度設定
3. 先行車捕捉アイコン “”
4. 車間設定アイコン “”

1. ACC 起動スイッチ “” を押します。ACC アイコンが白色 “” に点灯します。
2. ACC設定スイッチ “SET”を押して、ACC システムを作動させると、ACC アイコンが緑色 “” に点灯します。現在の走行速度が ACC システムのクルージングスピードとして設定され、ACC 速度設定に緑色 “100 km/h” で表示されます。
   ACC アイコンが緑色 “” または白色 “”で点灯中、先行車を捕捉すると、先行車捕捉アイコンが白色 “”に点灯します。

要　点

- ACC システムの使用中は、先行車を正確に捕捉するため、車線の中央付近を走行してください。
- スタビリティ コントロール システムが OFF になっていると、ACC システムを起動できません。スタビリティ コントロール システムを ON にしてください。
- ACC 異常アイコン “” が点灯する場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。



1. ACC 異常アイコン “”

ACC システムの作動中、ACC 設定スイッチ “RES” を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET” を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要　点

ACC 設定スイッチ “RES” / “SET” を押すたびに、設定したクルージングスピードが 1.0 km/h 変化します。ACC設定スイッチの “RES” 側または “SET” 側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、設定したクルージングスピードが 10k m/h ずつ増加または減少します。

ACC システムが作動中でも、スロットルを使用して加速することができます。加速した後、設定スイッチの “SET” 側を押すと、クルージングスピードが再設定できます。クルージングスピードを再設定しない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は現在設定しているクルージングスピードまで減速します。
ACC システムは、すべてのギヤで使用できます。それぞれのギヤでの最低設定クルージングスピードは以下の通りです。

最低設定クルージングスピード：
1 速ギヤ：30 km/h
2 速ギヤ：30 km/h
3 速ギヤ：40 km/h
4 速ギヤ：40 km/h
5 速ギヤ：50 km/h
6 速ギヤ：50 km/h
最高設定クルージングスピード：160 km/h

車間距離の設定

ACC システムの作動中または待機中、ACC 車間設定スイッチ “” を押すと、先行車との車間を 4 段階で設定できます。
現在の車間設定は、車間設定アイコン “” のバーの本数で表示されます。

バー 1 本 “”：最短 （100 km/h 走行時で約 27 m）
バー 2 本 “”：短 （100 km/h 走行時で約 33 m）
バー 3 本 “”：長 （100 km/h 走行時で約 44 m）
バー 4 本 “”：最長 （100 km/h 走行時で約 55 m）

要 点

- 同じ車間設定でも、走行している速度が速いと車間距離は長くなり、遅いと短くなります。
- ACC システムを再起動するとき、車間設定は前回の設定が維持されます。

ACC システムの解除と停止

次のいずれかの操作を行うと、ACC システムは解除され、待機状態になります。システムが待機状態になると、ACC アイコンが白色 “” に変わり、ACC 速度設定がグレーに表示されます。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回す
- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかける
- クラッチレバーを 1 秒以上握る

ACC システムを停止するには、ACC 起動スイッチ “” を押します。システムが停止すると、ACC アイコン “” および、ACC 速度設定が消灯します。

再開機能の使用方法

ACC システムを待機状態から再び作動させるには、ACC 設定スイッチ “RES” 側を押します。クルージングスピードが前回の速度設定に戻り、ACC アイコンが緑色 “” に点灯します。

JWA22400

⚠ 警 告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要 点

ACC システムの作動中に ACC 起動スイッチ “” を押すと、システムは完全に停止し、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

ACC システムの自動解除と自動停止

この車両の ACC システムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。ACC システムは、次の条件で自動的に解除され、待機状態になります。

- ABSまたはトラクションコントロールシステムが作動した場合
- 手動で加速しているときに、車両の速度が 180 km/h を超えた場合
- 現在のギヤに対して、次の下限速度を下回った場合：

1 速ギヤ：25 km/h
2 速ギヤ：25 km/h
3 速ギヤ：35 km/h
4 速ギヤ：35 km/h
5 速ギヤ：45 km/h
6 速ギヤ：45 km/h

また以下の条件で、ACC システムは自動的に停止状態になります。

- スターター / エンジンストップスイッチ “⊠/◯/㊀” を “⊠” にした場合
- エンジンが停止した場合
- サイドスタンドが下げられた場合
- トラクションコントロールシステムをOFFにした場合

ACC システムが上記の条件で停止した場合、ACC アイコン “” と ACC 速度設定が、数秒間白色に点滅してから消灯します。
ACC システムを再度使用するには、ACC 起動スイッチ “” を使用してください。

JWA22410

⚠ 警 告

- **ACC システムが解除、または停止した場合に備えて、運転者はいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。**

- **ACC システムが自動的に解除、または停止した場合は、停車してから周囲の状況や路面状況を確認して、車両が運転に適した状態であることを確認してください。**

要　点

上り坂または下り坂を走行する際、ACC システムは場合により、設定した速度を維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行速度は設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行速度まで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行速度は設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。速度を落とすには、ギアを下げるか、ブレーキ操作を行ってください。

JWA22430

⚠警　告

ACC システムの作動中は、減速のために前後ブレーキを電子制御しています。連続して下り坂を走行する場合、ブレーキが過熱してブレーキ性能が落ちる可能性があります。下り坂を走行するときは、ギヤを下げてエンジンブレーキをなるべく使用してください。

シフトチェンジリクエスト

現在のエンジン回転数に対してギヤが低すぎる場合、ACC シフトアップリクエストアイコン “GEAR△/” とギヤポジション表示が交互に表示されます。その場合は、ギヤを上げてください。

現在の車速に対してギヤが高すぎる場合、ACC シフトダウンリクエストアイコン “GEAR▽/” とギヤポジション表示が交互に表示されます。その場合はギヤを下げてください。

GEAR△/	ACC シフトアップリクエストアイコン
GEAR▽/	ACC シフトダウンリクエストアイコン

追い越しアシスト

ACC システムで走行車線を追従走行中、追い越し車線方向に方向指示器スイッチ “⇦/⇨” を作動させると、加速して追い越しを補助します。

要　点

先行車との車間に余裕がない場合は、追い越しアシストを使用しても加速しません。

- 追い越しアシストを使用してもしばらく追い越しをしなかった場合は、車両は加速をやめて元の車間に戻ります。
- 連続で追い越しアシストを作動させても車線変更をしなかった場合、加速が弱くなったり加速しなくなったりします。車線を変更したり、先行車が捕捉から外れると、再度追い越しアシストが使用できます。
- 追い越しアシストは、追越車線の方向へ合図して曲がる場合にのみ作動します。追い越し車線の方向（左または右）は、お住まいの国の交通法規によって決まります。追い越し車線の方向が逆である他国に入国する場合、システムは走行データを分析して調整する必要があります。この場合、システムが調整できるまでのしばらくの間、追い越しアシストは作動しません。

ACC システムによる制御

ACC システムは、次の機能により快適な走行をアシストします。

旋回アシスト機能

ACC システムを使用して先行車に追従中、車両の旋回を検知すると走行速度の上昇を抑え、先行車がいる場合は加速度の上昇も制限します。

電子制御サスペンションシステムとブレーキの連携

ACC システム使用中は、車間を保つためにエンジンブレーキ・前後ブレーキの順に作動して減速します。その際に、電子制御サスペンションシステムが減衰力を調整し、過度な前傾を抑えます。

JAUA0468

ブレーキシステム

この車両は、ABS とユニファイドブレーキシステム（UBS）が統合されたブレーキシステムを装備しています。

ブレーキのかけ方

ブレーキレバーとペダルは、従来のブレーキと同様に操作してください。ブレーキング時に車輪のスリップが検知されると、ABS が作動し、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じることがあります。そのままブレーキをかけ続けて、ABS を作動させてください。ブレーキを効果的に作動させるために、ポンピングブレーキはしないでください。

要　点

ABS は、車両が時速 5 km を超えると、自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、前後のブレーキに独立して作用します。

JWA15363

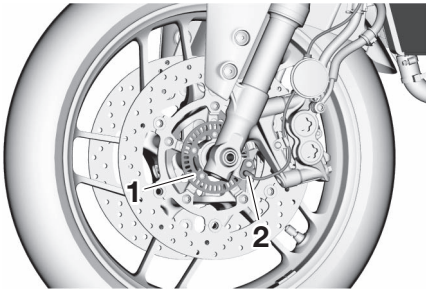
⚠警 告

- **ABS　は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

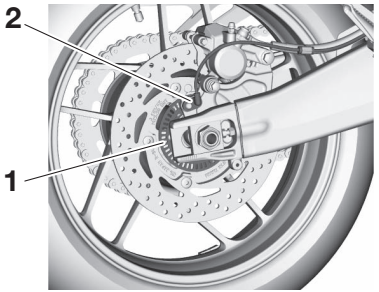
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

ユニファイドブレーキシステム（UBS）

ユニファイドブレーキシステム（UBS）は前後ブレーキを連動したブレーキシステムです。オートバイやスクーターのブレーキは、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用するのが基本です。UBS がアクティブな場合、フロントまたはリヤブレーキのいずれかを操作すると、制動力がもう一方のブレーキにも適切に配分されます。また、コーナリング中の制動力も UBS が自動的に調整します。

要　点

- UBS は、30 ～ 150 km/h の間で、ライダーが自らブレーキを操作したときに作動します。
- ライダーのブレーキ操作状況によっては、30 km/h 以下になっても UBS が作動し続けることがあります。

- ライダーがブレーキを操作しない場合、UBS は、作動しません。
- コーナリング時、車両の傾きが大きすぎると、UBS が働かない場合があります。
- UBS 作動時、ブレーキレバーやペダルの操作のフィーリングに変化がある場合がありますが、故障ではありません。

UBS を使用するには、BC（ブレーキコントロール）をオンにします（5-26 ページ参照）。

レーダー連携 UBS

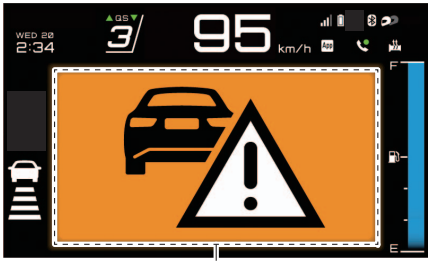
レーダー連携 UBS は、ミリ波レーダーからの先行車との車間距離情報も統合し、検知した車間距離に応じて、より高い制動力を発生させます。

JWA22600

⚠警 告

前後アシスト UBS およびレーダー連携 UBS は、衝突被害軽減ブレーキではありません。安全運転を行う責任はライダーにあります。ライダーは常に周囲の環境や交通状況を把握し、積極的にブレーキ操作を行って安全運転に努めてください。

レーダー連携 UBS により強いブレーキがかかると、ライダー介入リクエストが表示されます。ライダー介入リクエストが表示されたら、すぐに周囲の状況を確認して自身で車両の制御を行ってください。



1

1. ライダー介入リクエスト

JWA22540

⚠警 告

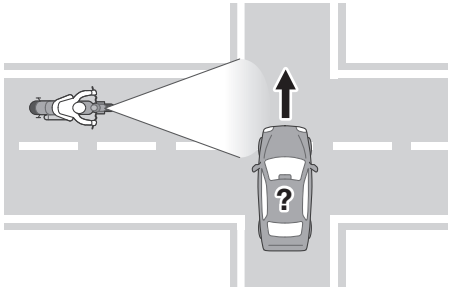
ライダー介入リクエストは、すべての状況下で表示されることを保証するものではありません。周囲の状況によっては、表示されなかったり、遅れたりすることがあります。常に周囲の環境や交通状況を把握し、いつでも自身で車両を操作できるようにしてください。

JWA22561

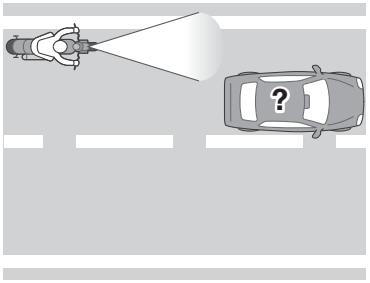
⚠警 告

- **周囲の環境や交通状況によっては、レーダー連携 UBS が作動しなかったり、予期しない減速をすることがあります。ライダーはいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。**
- **次のような場合、レーダー連携 UBS は先行車の動きを捕捉できないことがあります。状況に応じてブレーキ操作を行ってください。**
  - **他車両が急に割り込んできたとき**
  - **先行車が急ブレーキをかけたとき**
  - **先行車との速度差が非常に大きいとき**
- **次のような走行状況では、ミリ波レーダーが先行車を正確に捕捉できない場合があります。**
  - **車線の端に寄って走行している**
  - **前方の車両が車線の左、または右に寄って走行している**
  - **ハンドル操作が不安定で蛇行運転をしている**
  - **車両が後方に傾斜し、上向きになっている（最大積載量を超える荷物を積んでいる）**
  - **隣の車線の車両が、自車線寄りに走行している**
  - **急な上り坂、または下り坂を走行している**

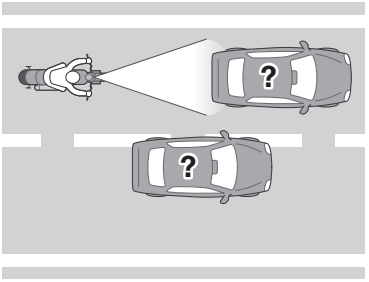
眼の前を車両が横切る



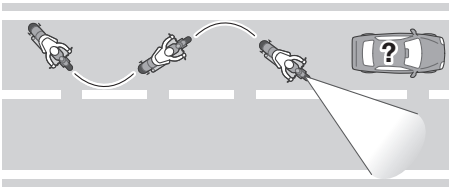
車線の端に寄って走行



隣の車線の車両が、自車線寄りに走行



蛇行運転（不安定な運転）

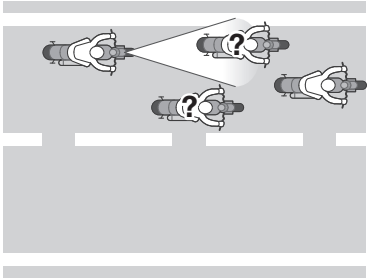


JWA22620

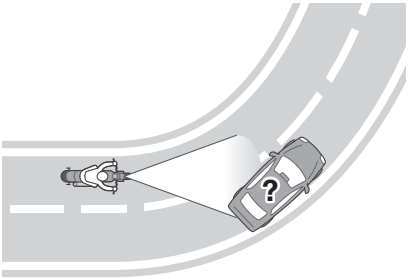
⚠警 告

- **次のような場合、同一車線上ににあっても検知できなかったり、誤って検知することがあります。**
  - **道路上に駐車している車両、渋滞で停止している車両**
  - **静止しているもの（トンネル、ガードレール、料金所など）**
  - **歩行者、自転車、動物**
  - **特殊な形状の車両（背の高い車両や荷台の長い車両など）**
  - **飛んでいるもの（ボール、ビニール袋、缶などの金属容器）**
  - **眼の前を横切る車両**
- **次のような場合、周囲環境によってミリ波レーダーが正しく反応しないことがあります。**
  - **電磁波の干渉がある場所**
  - **トンネル**
  - **ガードレールの近く**
  - **大雨、雪、あられなど**
  - **工事現場**
- **レーダーが先行車を見失ったり、誤ったものを捕捉してしまうと、レーダー連携 UBS が作動しなかったり、予期しない減速を行うことがあります。特に、急なカーブや曲がりくねった道では、先行車がレーダーから外れたり、隣の車線の車両を捕捉してしまう場合があります。**

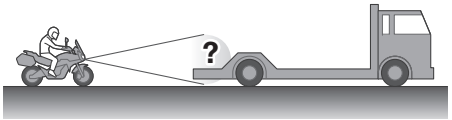
千鳥走行（レーダー捕捉対象が入れ替わる）



急カーブ



特殊な形状の車両



JAUA0557

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。車両の傾斜角度、加速度や、前後、上下、左右の各方向に沿った力を検出し、1 秒間に複数回の演算処理を行い、必要に応じて自動的に各システムが調整されます。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（5-26 ページ参照）

JWA18221

⚠ 警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

スタビリティコントロールシステム（SC）

スタビリティコントロールシステムは、トラクションコントロールシステム（TCS）、スライドコントロールシステム（SCS）、リフト

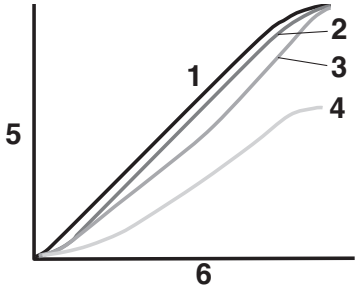
コントロールシステム（LIF）から構成されています。これらは、ポップアップメニューシステムの “YRC Setting” で個別に設定するか (5-26 ページ参照)、“SC Stability Control” でまとめてオン／オフを切り替えることができます (5-22 ページ参照)。

要　点

- メインスイッチをオンにすると、スタビリティコントロールシステムが自動的にオンになります。スタビリティコントロールシステムは、メインスイッチがオンで車両が停止している場合にのみ、手動でオン／オフを切り替えることができます。
- 泥や砂などの柔らかい路面で車両がスタックしたときは、スタビリティコントロールシステムをオフにすると後輪が抜け出しやすくなります。

PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、4 つの制御マップから構成されています。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。



1. PWR 1
2. PWR 2
3. PWR 3
4. PWR 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

TCS（トラクションコントロールシステム）

トラクションコントロールシステムは、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、スリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。
また、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、強くなります。



要　点

- トラクションコントロールシステムは、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- トラクションコントロールシステムや他のシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。

他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-5 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS（スライドコントロールシステム）

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、車体の傾きに応じてエンジン出力を制御します。このシステムは、スムーズな走行をするためにトラクションコントロールシステムを支援します。

LIF（リフトコントロールシステム）

LIF は、発進時やコーナー出口からの急な加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整して前輪の浮き上がりを緩やかにし、最適な加速が得られるよう制御します。

SUS（電子制御サスペンション）

SUS は、電子制御サスペンションシステム [KYB Actimatic© Damper System (KADS)] により、走行環境に合わせてサスペンション減衰力を自動調整する機能です。

JWA21170

警 告

走行中はサスペンションモードの設定変更をしないでください。

SUS は、サスペンション減衰力を制御する 2 つのモードがあり、ライダーの好みや走行環境に応じて選択できます。
SUS A-1 - 減衰力が強めのスポーツセッティングで、平坦な路面環境に適しています。
SUS A-2 - 減衰力が弱めのセッティングで、荒れた路面環境に適しています。

QS（クイックシフター）

クイックシフターは、電子制御により、クラッチ操作なしでのシフトチェンジを可能にしています。シフトロッド部にあるセンサーがシフトペダルの動きを検知すると、エンジン出力が瞬間的に調整され、変速が可能になります。
クイックシフターは、クラッチレバーが握られているときは機能しません。クイックシフターがオンになっていても、クラッチレバーを使用した通常の操作が可能です。クイックシフターの状態については、クイックシフター表示を確認してください。

クイックシフターの状態	クイックシフター表示
シフトアップ可能	QS ▲▽
シフトダウン可能	QS △▼
クイックシフター使用不可	QS △▽
クイックシフターオフ	QS △▽

シフトアップ操作の可能な条件
- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2100 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い

シフトダウン操作の可能な条件
- 車両の速度が 20 km/h 以上
- エンジン回転数が 2000 r/min 以上
- エンジン回転数がレッドゾーンより十分に低い

要 点

- QS ▲ と QS ▼ は個別に設定できます。
- ギヤをニュートラルにするとき、またはニュートラルから他のギヤへシフトチェンジするときは、クラッチレバーを使用してください。
- アダプティブ　クルーズ　コントロール (ACC) システムが起動しているときも、クイック シフターは、使用できます。

BC（ブレーキコントロール）

BC（ブレーキコントロール）システムは、ブレーキを操作し、ホイールがロックされたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、メニュー画面より 2 つの設定ができます。
- BC がオフのとき：標準の ABS のみが有効

- BC がオンのとき：標準の ABS 制御に加え、ユニファイドブレーキシステム（UBS）、レーダー連携ユニファイドブレーキシステム（UBS）とコーナリングアシストブレーキがすべて有効

ブレーキシステムの詳細については、3-9ページを参照してください。

要　点

熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、BC システムが予想以上に速くブレーキをかけることがあります。

JWA22532

⚠警 告

- **BC を ON にしていても、コーナリング中に強いブレーキングをすると、ホイールが滑ってバランスを崩すことがあります。十分に減速してからコーナーに進入してください。**
- **一般公道以外では、BC を使用しないでください。BC が正しく作動せず、事故につながる可能性があります。**

スマートフォン連携システム

JAU9612B

スマートフィーチャー

JWA21412

⚠警 告

- **走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **設定を変更する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

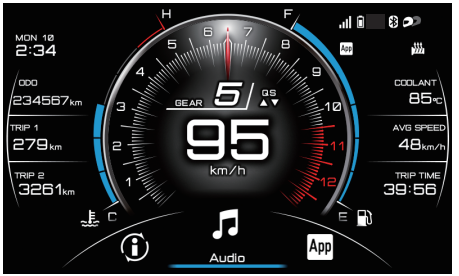
この車両はスマートフォン連携システムを搭載しており、CCU（コミュニケーションコントロールユニット）を介して接続されたスマートフォンを利用して、いろいろなスマートフィーチャーを使用できます。

スマートフィーチャー：	必要な接続／アプリ：
電話（4-8 ページ参照）	● Bluetooth（4-3 ページ参照）
オーディオプレイヤー（5-20 ページ参照）	

スマートフィーチャー：	必要な接続／アプリ：
通知（5-22 ページ参照）	● Bluetooth（4-3 ページ参照） ● MyRide - Link アプリ（4-2 ページ参照）
天気（5-22 ページ参照）	
時計（5-24 ページ参照）	
言語設定（4-2 ページ参照）	
GPS ナビゲーション（4-7 ページ参照）	● Bluetooth（4-3 ページ参照） ● MyRide - Link アプリ（4-2 ページ参照） ● USB（4-3 ページ参照） ● Garmin Motorize（4-7 ページ参照）

要　点

- お使いのスマートフォンによっては、一部の機能が利用できない場合があります。
- 車両の電源をオンにしてから CCU が起動するまでに約 30 秒かかります。この間、スマートフィーチャーは利用できず、メニューはグレーで表示されます。
- バッテリーの取り外し／再接続後は、CCU が起動するまでに約 1 分かかります。



スマートフィーチャーへは、メインディスプレイ下側にあるポップアップメニューから接続できます。（5-14 ページ参照）メニューと関連するすべての機能は、ジョイスティックとホームボタン “⌂” を使用して操作します。（5-4 ページ参照）

操作をする前に、ジョイスティック／ホームボタン “⌂” とポップアップメニューの操作方法をお読みください。その後、スマートフォンで初期設定と CCU への接続を完了してください。

ジョイスティック／ホームボタン



1. ジョイスティック
2. ホームボタン “⮌⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用してジョイスティックとホームボタンの使い方を説明しています。

“⮌⌂” を短押し	ホームボタンを短く押します
“⮌⌂” を長押し	ホームボタンを 1 秒間押します
“✔” を短押し	ジョイスティックを短く押します
“✔” を長押し	ジョイスティックを 1 秒間押します
ジョイスティックを操作	ジョイスティックを上下左右に動かします

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- “⮌⌂” を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔” を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “✔” を短押しして選択した項目を実行します。
- “⮌⌂” を短押しすると、前の画面に戻ります。
- “⮌⌂” を長押ししてメニューを閉じます。

要　点

- メニュー項目に “‹ ˆ ˇ ›” （矢印）が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、ハイライト表示された機能の表示ができます。
- 一部のメニューには、“<” （戻る）が表示されます。その場合は、ジョイスティックを左に操作して前の画面に戻ることができます。
- 一部のメニューには、“>” （進む）が表示されます。メニューがハイライト表示されているときに、ジョイスティックを右に操作するか、“✔” を短押しすると、次の画面を開くことができます。

MyRide - Link アプリ

Google Play で手に入れよう

App Store からダウンロード

MyRide - Link アプリは、CCU とスマートフォンを接続し、ナビゲーション、SNS 通知、天気の機能を使用する場合に必要です。
MyRide - Link アプリには、以下の機能があります。

- 言語設定
- 車両に通知表示させるアプリの選択（Android のみ）
- 音量調節（Android のみ）

- メニューシステムの “App アプリケーション ” 画面のアイコン表示順の並び替え
- 最後に駐車した場所の地図

要　点

- MyRide - Link を使用するには、MyRide - Link の利用規約に同意する必要があります。
- MyRide - Link アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ナビゲーションやその他の機能では、スマートフォンでGPSのアクセス許可を “常に許可 ” に設定する必要があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth 検出、アプリのアクセス許可、およびその他の設定については、個々のスマートフォンで手順を参照してください。

JAUA0510

初期設定

スマートフィーチャーを使用するには

1. Bluetooth で CCU とスマートフォンをペアリングし接続します。
2. アプリケーションストアで MyRide - Link アプリを検索し、スマートフォンにダウンロード、インストールします。インストールが完了したら、CCU にペアリングし接続します。
3. ナビゲーションシステムを使用するには、スマートフォンを USB 接続します。
4. オーディオ、電話、ナビゲーションシステムを使用するには、Bluetooth ヘッドセットを CCU にペアリングし接続します。

Bluetooth のペアリング／接続

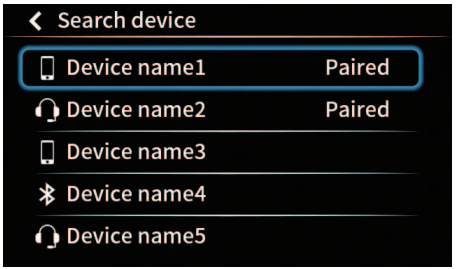
JCAN0150

注　意

次のようなときはBluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. 接続に使用するスマートフォンをBluetooth で検出可能な設定にします。
2. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “Settings（設定）” → “Connections（コネクション）” → “Bluetooth” → “Search device（機器検索）” → “Smartphone（スマートフォン）” 少しすると、検出されたスマートフォン名がリストに表示されます。リストからペアリングするスマートフォンを選択します。



要　点

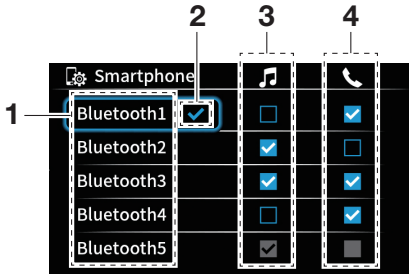
- “App Applications（アプリケーション）” → “Settings（設定）” → “Connections（コネクション）” → “Bluetooth” → “Make system discoverable（デバイス検出モード）” に進んで、スマートフォンのBluetooth 設定から車両の CCU 名を検出し、接続することもできます。車両の CCU 名は “LB# +10 桁の数字 ” で表示されます。

● Bluetooth 設定で検出できるようにした後、スマートフォンを 3 分以内に CCU と接続してください。3 分以内に接続できない場合はエラーになります。

3. Bluetooth のペアリングをするには、車両のディスプレイに表示されているパスキーと同じパスキーがスマートフォンに表示されます。パスキーが同じであることを確認したら、スマートフォン側でペアリングを許可します。



4. 車両のディスプレイには、次の 2 つの選択肢が表示されます：“Pair（ペア）” / “Don’t pair（キャンセル）”
“Pair（ペア）” を選択するとBluetooth の接続が完了し、“Paired device list（登録済みデバイス）” 画面にスマートフォン名が表示されます。



1. デバイス名
2. 接続中
3. オーディオ用接続
4. 電話用接続



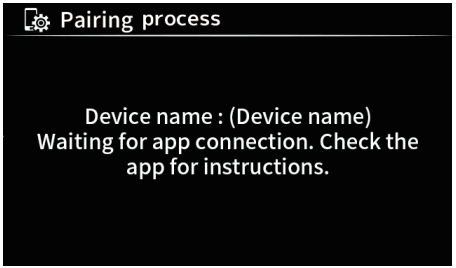
Bluetooth 接続が完了すると、電話とオーディオの機能が使用可能になります。

要　点

● 連絡先情報を車両と共有するためのリクエストがスマートフォンに表示されます。CCU へのデータアップロードを拒否しても、後で行うことができます。
● Bluetooth　のペアリング履歴がスマートフォンから削除された場合、再度ペアリングするには、一度 “Paired device list（登録済みデバイス）”から対応するスマートフォン名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
● Bluetooth　のペアリング履歴が　CCU　の “Paired device list（登録済みデバイス）” から削除された場合、再度ペアリングするには、一度スマートフォンのペアリング履歴からから車両の CCU 名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。

MyRide - Link のペアリング／接続

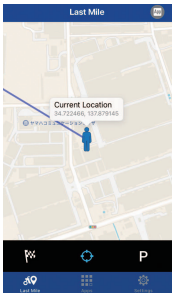
1. 車両がBluetooth でスマートフォンに接続されていることを確認してください。
2. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “Settings（設定）” → “Connections（コネクション）” → “Pairing with the MyRide Link（MyRide Link とのペアリング）”



CCU 名は “LB# + 10 桁の数字 ” で表示されます。

要　点

“Pairing with the MyRide Link（MyRide Link とのペアリング）” を表示してから、60 秒以内にアプリを接続してください。60 秒以内に接続できない場合はエラーになります。再度手順に従ってペアリングを行ってください。



3. MyRide – Link アプリの “ 設定 ” から “ 車両 ” を開きます。画面の右上にある “+” をタップすると、CCU 名が表示されます。



4. CCU 名をタップすると、“Bluetooth ペアリングの要求”とスマートフォンに表示されます。そこで “ ペアリング ” を選択すると、MyRide - Link アプリがペアリングされ、CCU に接続されます。



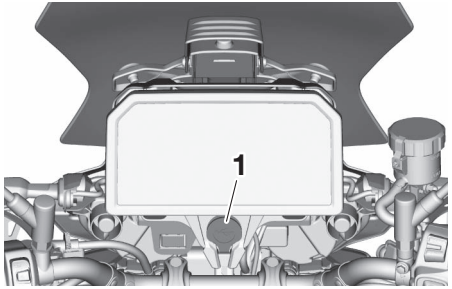
MyRide - Link アプリと CCU の接続が完了すると、通知と天気の機能が使用可能になります。

要　点

- 車両は、MyRide - Link アプリと CCU がペアリングされている場合、MyRide - Link アプリで選択されている言語表示になります。MyRide - Link アプリは、インストールしたときのスマートフォンの言語設定を利用しています。スマートフォンの設定言語が CCU でサポートされていない場合、英語が自動的に選択されます。
- Bluetooth　のペアリング履歴がスマートフォン、CCU のいずれかから削除された場合は、MyRide - Link アプリのペアリング履歴を削除してから、再度ペアリングをしてください。
- ペアリングが完了すると、自動的に MyRide - Link アプリが開き、CCU に接続します。（Android のみ）

USB 接続

USB ジャックにスマートフォンを接続します。（5-41 ページ参照）



1. USB ジャック

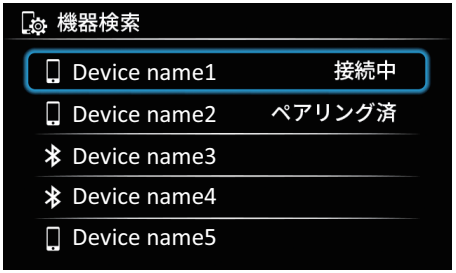
JCA27740

注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

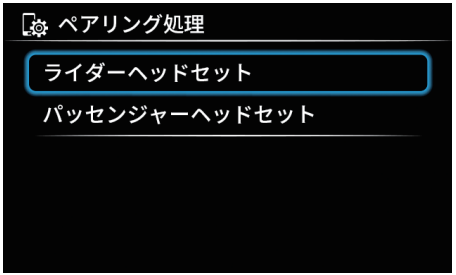
Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. 接続するヘッドセットをBluetooth で検出可能な設定にします。
2. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “ 設定 ” → “ コネクション ” →“Bluetooth” →“ 機器検索 ” →“ ヘッドセット ”

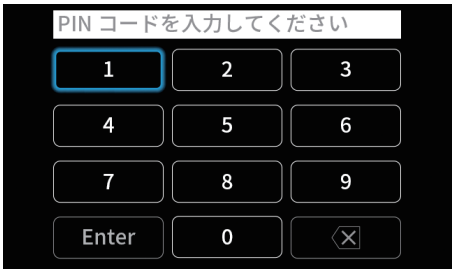


少しおいて、使用できるヘッドセットのデバイス名がリストに表示されます。リストからペアリングするヘッドセットを選択します。

3. ライダーヘッドセットまたはパッセンジャーヘッドセットのいずれかを選択します。



この時点で、一部のヘッドセットではPINコードの入力が必要になる場合があります。



接続すると、ディスプレイが “ 登録済みデバイス ” に切り替わり、ヘッドセットアイコン “ ” が表示されます。

要 点

ヘッドセットのペアリング完了後でも、“ 登録済みデバイス ” からライダーまたはパッセンジャーへ設定を切り替えることができます。(5-18 ページ参照)

4

JAU96116

ナビゲーションシステム： Garmin Motorize

JWA21401

⚠警 告

- **ナビゲーションシステムを操作する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**



この車両は、スマートフォンを車両に接続して、ナビゲーションアプリによる画像と音声（別途Bluetooth ヘッドセットが必要です）でルート案内するナビゲーションシステムを使用することができます。ナビゲーションシステムの使用には、MyRide - Link アプリ（無料）と Garmin 社が提供する Garmin Motorize ナビゲーションアプリをアプリケーションストアからスマートフォンにダウンロードし、有料サービスに登録してください。
ナビゲーションを使用するには、次の準備をしてください。

- スマートフォンを USB ジャックに接続
- Bluetooth で MyRide - Link アプリを接続
- Bluetooth でヘッドセットを接続（音声ルート案内）

要 点

- Garmin Motorize アプリを使用するには、Garmin Motorize の利用規約に同意する必要があります。
- ヤマハ発動機は、Garmin Motorize アプリの使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 利用には料金がかかりますのでご注意ください（初回 30 日間の無料トライアルをご利用いただけます）。
- 常に Garmin Motorize アプリが画面に表示された状態で使用してください。別のアプリ（電話、アラームなど）が画面に表示された場合、スマートフォンがスリープ状態から自動ロックされ、ナビゲーションアプリ機能が停止する場合があります。
- Garmin Motorize アプリの GPS へのアクセス許可を、スマートフォンの設定で “ 常に許可 ” に設定してください。
- Garmin Motorize アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- iOS のスマートフォンは、MyRide - Link アプリが起動していなくてもナビゲーションシステムを使用できます。

ナビゲーションシステムの使い方

ナビゲーションシステムは、ジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。

- “⮌⌂” を長押しして、メインディスプレイからナビゲーションシステムを開きます。
- “✔” を短押ししてナビゲーションシステムメニューを開きます。
- ジョイスティックを上下に操作して、地図のズーム調整をします。
- “⮌⌂” を長押ししてナビゲーションを終了し、メインディスプレイに戻ります。



ナビゲーションシステムが Garmin Motorize アプリに接続できない場合は、このエラー画面が表示されます。続ける場合は、“OK” を選択し “✔” を短押ししてください。

JAU96138

電話

この車両は、スマートフォンとBluetooth ヘッドセットを利用して電話機能を使用することができます。この機能を使用するには、スマートフォンとBluetooth ヘッドセットのそれぞれを CCU とBluetooth でペアリングして接続してください。(4-3 ページ参照) 電話機能はジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。(5-4 ページ参照)

電話を受ける



接続されたスマートフォンに電話がかかってくると、ヘッドセットから着信音が鳴り、ディスプレイ下側に電話機能が表示されます。緑色の電話アイコンを選択し “✔” を短押しして、電話に応答します。通話中は、ディスプレイ右上に電話表示アイコン（緑）“📞” が表示されます。

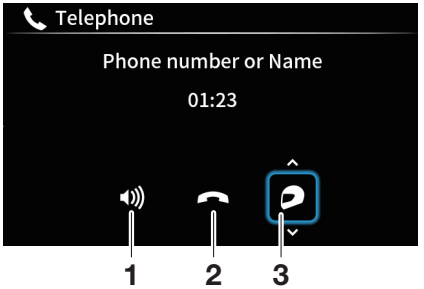
要　点

着信中にジョイスティックを上下に操作すると、着信音量を調整できます。



1. 音量
2. 通話終了

音量アイコンをハイライト表示し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。通話終了アイコンをハイライト表示し、“✔” を短押しして通話を終了します。



1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え（Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン）

ポップアップメニューを開くと、ディスプレイ下側にある電話機能が非表示になりますが、メニューシステムの “📞 Telephone” に移動すると、再度表示されます。通話中にメニューシステムの “App Applications（アプリケーション）” → “ 電話 ” に移動すると、通話画面から使用できる機能を選択できます。(5-21 ページ参照)

要　点

通話画面をホームボタン “🏠” で閉じても、通話は終了しません。

音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して、通話の音量レベルを調整します。通話終了アイコンを選択し、“✔” を短押しして通話を終了します。

電話をかける

1. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）”→“電話”
   通話中ではない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔”を短押しすると通話を開始します。ディスプレイは通話中の画面になります。



2. スマートフォンと CCU を接続している場合でも、スマートフォンから直接電話をかけることができます。スマートフォンから直接電話をかけると、車両のディスプレイ下側に電話機能が表示されます。通話音声は、接続されたBluetoothヘッドセットから再生されます。

要　点

連絡先情報がスマートフォンから CCU に共有されていない場合、直近の発着信履歴には、スマートフォンが接続されているときに通話した電話番号のみが表示されます。

JWA21420

⚠警 告

- **走行中はスマートフォンを操作しないでください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

JAU96882

接続エラーが発生したときは

スマートフォンや MyRide - Link アプリ、Garmin Motorize アプリと CCU の接続にエラーが発生した場合、以下の画面が表示されます。



“詳細”を選択し、画面の指示に従って接続を確認してください。



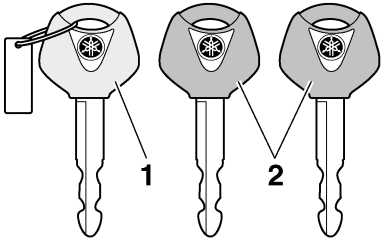
エラーが解消しない場合は、次のことを試してください。

1. 車両の電源をオフにします。30 秒後、電源を再度オンにしてください。
2. USB プラグを抜きます。10 秒後、USB プラグを再度接続してください。
3. スマートフォンのBluetooth をオフにします。その後、再度オンにしてください。
4. スマートフォンと CCU の両方からBluetooth のペアリング履歴を削除して、再度ペアリングを行ってください。
5. MyRide - Link アプリと Garmin Motorize アプリを再起動してください。

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが 1 本とマスコット部が黒いサブキーが 2 本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注 意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- **メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーの ID を登録することができなくなります。また、3 本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。**
- **キーを水に浸けないでください。**
- **キーを高温になる場所に置かないでください。**
- **キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。**
- **キーに電波を発信するものを近づけないでください。**
- **キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。**
- **キーを分解しないでください。**
- **複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。**
- **金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。**

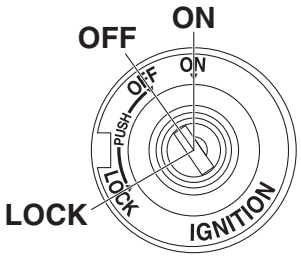
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有の ID を持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 5-7 ページを参照してください。）

JAU10462

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU46011

OFF

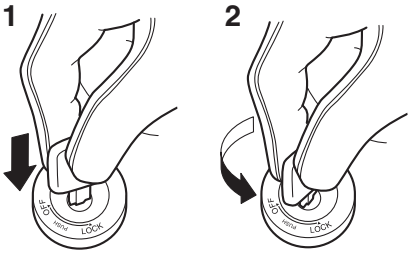
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU73803

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



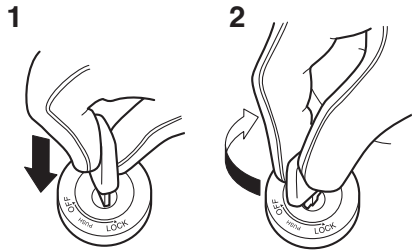
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



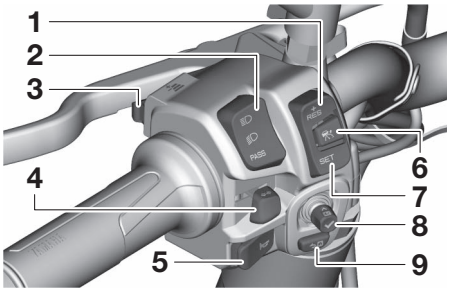
1. 押す
2. 回す

キーを押し込み、そのままOFFまで回します。

JAU6605A

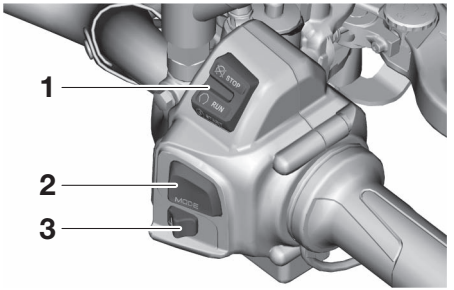
ハンドルスイッチ

＜左＞



1. ACC 設定スイッチ “RES”
2. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “/PASS”
3. ACC 車間設定スイッチ “”
4. 方向指示器スイッチ “/”
5. ホーンスイッチ “”
6. ACC 起動スイッチ “”
7. ACC 設定スイッチ “SET”
8. ジョイスティック
9. ホームボタン “”

＜右＞

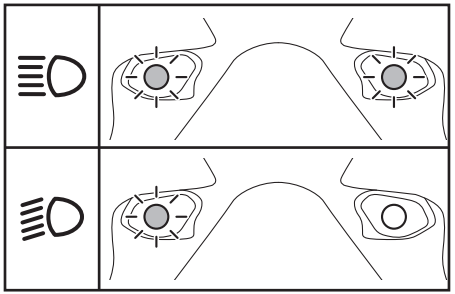


1. スターター／エンジンストップスイッチ “/”
2. YRC モードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “”

JAU54203

ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “/PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。
（上向き）：遠くを照らします。
（下向き）：近くを照らします。



ヘッドライトの配光が下向きのときに“PASS”側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU66030

ホーンスイッチ“🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU94790

スターター／エンジンストップスイッチ“⊠/◯/㋮”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“◯”に合わせてから、スイッチを“㋮”まで押してください。エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。
転倒などの非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“⊠”にします。通常は“◯”にしておきます。“⊠”にすると、エンジンは始動できません。

JAU91671

ハザードスイッチ“⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。
ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAUA0571

アダプティブクルーズコントロールスイッチ

アダプティブクルーズコントロールスイッチの説明については、3-1 ページを参照してください。

JAU99791

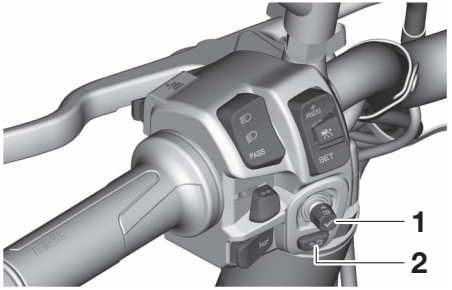
YRC モードスイッチ“MODE”

YRC モードを切り替えるときに使用します。
YRC 設定の詳細については、5-14 ページ、5-26 ページを参照してください。

JAU95874

ジョイスティック／ホームボタン

左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで、ポップアップメニュー、ナビゲーションシステム、およびインフォメーションディスプレイを操作します。



1. ジョイスティック
2. ホームボタン“ ”

この取扱説明書では、次の用語を使用して操作を説明しています。

“ ” を短押し	ホームボタンを短く押します
“ ” を長押し	ホームボタンを 1 秒間押します
“ ” を短押し	ジョイスティックを短く押します
“ ” を長押し	ジョイスティックを 1 秒間押します
ジョイスティックを操作	ジョイスティックを上下左右に動かします

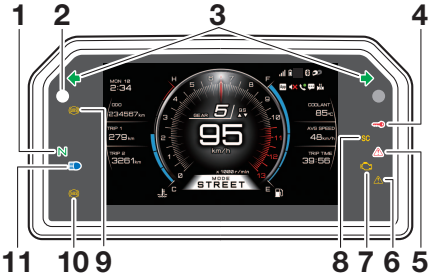
メインディスプレイ画面
- ジョイスティックを上下に操作して、左側のインフォメーションディスプレイを順番に表示します。(5-9 ページ参照)
- “ ” を長押しして、すべての音量をミュート（消音）とミュート解除を切り替えます。
- ジョイスティックを左右に操作、“ ” を短押し、または “ ” を短押ししてポップアップメニューを開きます。(5-14 ページ参照)
- “ ” を長押ししてナビゲーション表示を開きます。(4-7 ページ参照)

メニューの操作
- ジョイスティックを左右上下に操作して、メニュー項目を選択および調整します。
- “ ” を短押しして選択を実行します。
- “ ” を短押しすると前の画面に戻ります。
- “ ” を長押ししてメニューを閉じます。

ナビゲーション表示画面
- “ ” を短押ししてナビゲーションシステムメニューを開きます。(4-7 ページ参照)
- ジョイスティックを上下に操作して、地図のズーム調整をします。
- “ ” を長押しして、すべての音量をミュート（消音）とミュート解除を切り替えます。
- ジョイスティックを左右に操作、または “ ” を短押ししてポップアップメニューを開きます。
- “ ” を長押ししてメインディスプレイに切り替えます。(5-8 ページ参照)

JAU77129

警告灯と表示灯



1. ニュートラルランプ “N”
2. シフトタイミングインジケーターランプ “ ○ ”
3. 方向指示器表示灯 “ ” ／ “ ”
4. イモビライザーシステム表示灯 “ ”
5. 油圧・水温警告灯 “ ”
6. 補助システム警告灯 “ ”
7. エンジン警告灯 “ ”
8. スタビリティコントロール表示灯 “SC”
9. UBS 警告灯 “ ”
10. ABS 警告灯 “ ”
11. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

JAU88680

方向指示器表示灯 “ ”/“ ”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU91820

ニュートラルランプ “N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88690

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU91840

エンジン警告灯 “ ”
エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リアブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU92700

ABS 警告灯 “ ”
車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要　点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

警 告

5 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき：

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAUA0502

UBS 警告灯 “ ”
車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。また、BC（ブレーキコントロール）をオフにすると警告灯が点灯します。走行中に UBS 警告灯が点灯したときは、前後アシスト UBS、レーダー連携 UBS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA22551

警 告

以下の場合は、直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

- **車両の電源をオンにしても UBS 警告灯が点灯しないとき**

- **5 km/h 以上の速度で走行しても UBS 警告灯が消灯しないとき**
- **BC（ブレーキコントロール）が ON で走行中に UBS 警告灯が点灯したとき**

要　点

エンジン始動時にバッテリー電圧が低下すると、BC（ブレーキコントロール）がオフになることがあります。この場合、UBS 警告灯も点灯します。このような場合は、ヤマハ販売店でバッテリーの点検を受けてください。

JAU99711

シフトタイミングインジケーターランプ “○”

シフトアップのタイミングをお知らせします。ランプが点灯または消灯するエンジン回転数や点灯に関する設定を、ポップアップメニューで調整することができます。（詳しくは 5-28 ページを参照してください。）

要　点

- シフトタイミングインジケーターランプは、ギヤがニュートラルまたは 6 速の場合は作動しません。
- 車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU92710

イモビライザーシステム表示灯 “🔑”

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーのIDの認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

JAUA0582

スタビリティコントロール表示灯 “SC”

トラクションコントロールシステム、SCS、または LIF が作動すると、この表示灯が点滅します。またスタビリティコントロール “SC” をオフにすると点灯します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA28471

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでトラクションコントロールシステムは作動せず、スタビリティコントロール表示灯 “SC” が点灯します。

JAU92752

油圧・水温警告灯 “⚠”

エンジン油圧が低い、もしくはエンジン冷却水温が高いときに、この警告灯が点灯します。この場合、エンジンをすぐに停止してください。

要　点

- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

● 異常が発生したとき、警告灯が点灯し、油圧警告アイコンが点滅します。

JCA22441

注 意

油圧・水温警告灯がエンジン始動後に消灯しない場合や、走行中に点灯した場合は、すぐに停車してエンジンを停止してください。

- **エンジンがオーバーヒートしているときは、水温警告アイコンが点灯します。エンジンを冷ましてください。また、冷却水量を点検してください。(8-4 ページを参照)**
- **エンジンオイルの油圧が低いときは、油圧警告アイコンが点灯します。オイル量を点検してください。(8-2 ページを参照)**
- **エンジン冷却後やオイル補充後にも警告灯や警告アイコンが点灯したままの場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。点検を受けないまま、引き続き車両を運転しないでください。**

JAU92731

補助システム警告灯 “⚠”

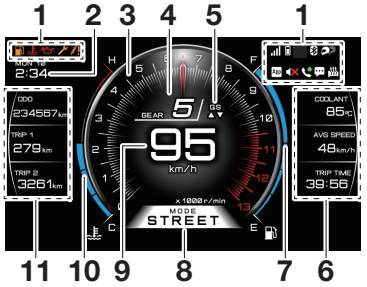
エンジン以外のシステムに異常が発生したとき、警告灯が点灯します。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAUA0569

ディスプレイ



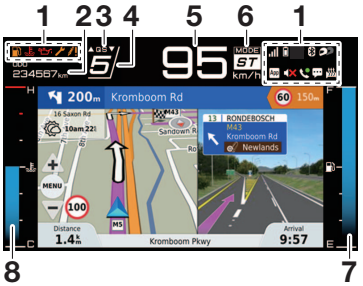
1. 表示アイコン
2. 時計
3. タコメーター
4. ギヤポジション表示
5. クイックシフター表示 “QS”
6. 右側インフォメーションディスプレイ
7. 燃料計
8. YRC モード表示
9. スピードメーター
10. 水温計
11. 左側インフォメーションディスプレイ

要 点

- この車両は TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位は、キロメートルとマイル、°C（摂氏）と °F（華氏）を切り替えることができます。(5-24 ページ参照)

● 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

メニューシステムまたはナビゲーション機能の使用中



1. 表示アイコン
2. お気に入りインフォメーションディスプレイ
3. クイックシフター表示 “QS”
4. ギヤポジション表示
5. スピードメーター
6. YRC モード表示
7. 燃料計
8. 水温計

メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、ディスプレイの情報は上記のように表示されます。

時計
この時計は 12 時間表示です。時刻はスマートフォンを接続すると自動的に更新されますが、“⚙ Machine Settings” → “Clock” で手動設定することもできます。(5-24 ページ参照)

スピードメーター
車両の速度を示します。

タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 10500 r/min 以上

燃料計
フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが “F” (満) から “E” (空) に向けて減っていきます。最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

水温計
冷却水の温度は、天候やエンジン負荷によって変化します。冷却水の温度が上限を超えると、水温計が点滅を始めます。水温計が点滅したときは、車両を停車させエンジンを冷ましてください。

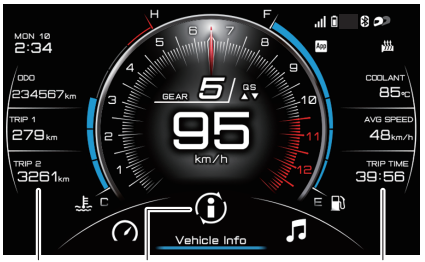
ギヤポジション表示
選択しているギヤポジションが表示されます。この車は 6 段変速です。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルランプ “N” が点灯し、ギヤポジション表示に “N” が表示されます。

クイックシフター表示 “QS”
クイックシフターの状況が表示されます。
アイコンなし : クイックシフターが設定されていません。
“QS △▽”: クイックシフターを使用したシフトアップとシフトダウンが可能です。
“QS △”: クイックシフターを使用したシフトアップが可能です。
“QS ▽”: クイックシフターを使用したシフトダウンが可能です。

要 点

クイックシフターのシフトアップ / ダウン機能は、ポップアップメニューから、それぞれ個別に設定できます。(5-26 ページ参照)
クイックシフターの詳細は、3-14 ページを参照してください。

インフォメーションディスプレイ

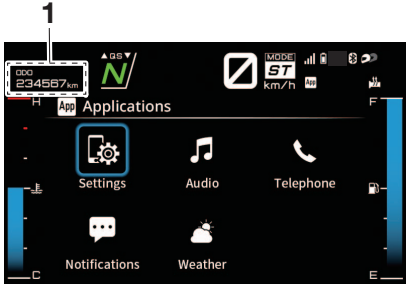


1. 左側インフォメーションディスプレイ
2. “ⓘ Vehicle Info”
3. 右側インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイは、メインディスプレイのスピードメーター／タコメーターの左右外側に表示されます。表示項目は、次のとおりです。
- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
- 平均燃費 (AVG FUEL)
- 瞬間燃費 (INST FUEL)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 気温計 (AIR)
- 水温計 (COOLANT)
- 平均速度 (AVG SPEED)
- 走行時間 (TRIP TIME)

左側のインフォメーションディスプレイには、同時に 3 つの項目が表示されます。ジョイスティックを上下に操作することで、ほかの項目を順番に表示できます。右側のインフォメーションディスプレイには、お気に入

りの項目を 3 つ表示できます。お気に入り項目はメニューシステムの “⚙ Machine Settings” → “Vehicle Info” から選択できます。(5-25 ページ参照)
ナビゲーションやメニュー画面を開いている場合は、3 つのお気に入り項目の 1 つを画面上部に表示することができます。



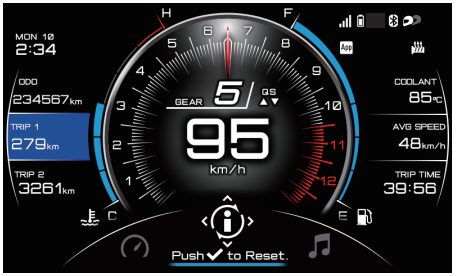
1. お気に入りインフォメーションディスプレイ

ナビゲーション画面でメニューシステムの “ⓘ Vehicle Info” を選択し、ジョイスティックを上下に操作すると、画面上部のお気に入り項目が順番に表示されます。

要　点

メニュー画面で表示されるお気に入り項目は、1 つに固定されます。変更するには、メニューシステムの “⚙ Machine Settings” → “Vehicle Info” へ進み、お気に入り項目を選択しなおしてください。

インフォメーションディスプレイの数値をリセットするには



1. メニューシステムの “ⓘ Vehicle Info” を選択します。(5-14 ページ参照)
2. アイコンの周りに4方向の矢印が表示され、ジョイスティックで左側のインフォメーションディスプレイの数値を選択します。数値が青くハイライト表示され、“ⓘ” の下に “Push ✔ to Reset” と表示されます。
3. 青くハイライト表示された数値をリセットできる場合は、数値が点滅し “Push ✔ to Reset” と表示されます。点滅中に “✔” を押すと、確認画面が表示されます。“Yes” を選択すると、数値がリセットされます。

要　点

表示されている数値をリセットできない場合は、“Push ✔ to Reset” がグレー表示になります。インフォメーションディスプレイの数値は、“All Reset” 機能でリセットできます。(5-30 ページ参照)

オドメーター (ODO)
車両の総走行距離が表示されます。

要　点

オドメーターは最大値 999999 で固定され、リセットできません。

トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
“TRIP 1” と “TRIP 2” は、ゼロにリセットされてからの走行距離が表示されます。
“TRIP 1” と “TRIP 2” は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

平均燃費 (AVG FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、平均燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(5-24 ページ参照) 表示単位がマイルの場合、平均燃費は “MPG” で表示されます。

瞬間燃費 (INST FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、瞬間燃費は“km/L”または“L/100km”に設定できます。(5-24 ページ参照) 表示単位がマイルの場合、瞬間燃費は“MPG”で表示されます。

フューエルトリップメーター (TRIP F)
燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F”はその時点からの走行距離を計測します。フューエルトリップメーターは、給油後ある程度の距離を走行すると自動的にリセットされます。

気温計 (AIR)
気温を、–9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。表示される温度は、外気温と一致していない場合があります。

要　点

- 計測された気温が–9 °C未満の場合、“---”と表示されます。
- 計測された気温が50 °C以上の場合、“---”と表示されます。

水温計 (COOLANT)
冷却水の温度を、–30 °C から 130 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。

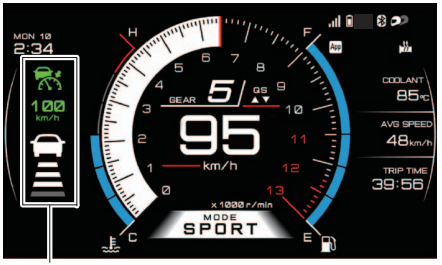
要　点

- 冷却水の温度が–30 °C未満の場合、“–30”と表示されます。
- 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi”と表示されます。

平均速度 (AVG SPEED)
最後にリセットしてからの平均速度が表示されます。

走行時間 (TRIP TIME)
エンジンの稼働時間が表示されます。

ACC ディスプレイ



1

1. ACC ディスプレイ

ACC システムが作動中または待機中の場合、ACC ディスプレイが表示されます。ACC ディスプレイは、上記のように左側インフォメーションディスプレイに代わって表示されます。



1

1. ACC ディスプレイ

ナビゲーション機能を使用中の場合、ACC ディスプレイは、このように水温計に代わって表示されます。

要　点

ACC（アダプティブクルーズコントロール）システムの詳細については、3-1 ページを参照してください。

ACC アイコン “ ”/“ ”
ACC システムが待機中の場合、ACC アイコンは白色にされます。また、ACC システムが作動中の場合、緑色に点灯します。

ACC 異常アイコン “ ”
ACC システムに異常がある場合に、ACC アイコンに代わり、点灯します。
点灯した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

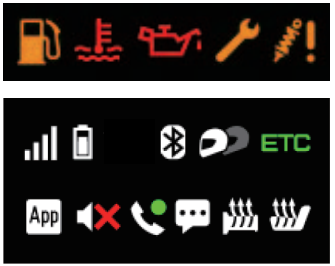
ACC 速度設定
ACC システムの現在設定しているクルージングスピードを示します。
100 km/h：設定したクルージングスピードが表示されます。グレーのアイコンは、ACC システムが待機中を示します。
100 km/h：設定したクルージングスピードが表示されます。緑のアイコンは、ACC システムが作動中を示します。
--- km/h：クルージングスピードが設定されていません。

先行車捕捉アイコン “”
このアイコンは、ACC システムが先行車を補足したときに点灯します。

車間設定アイコン “”
ACC システムの現在設定している車間設定を示します。
(バー 1 本)：最短
(バー 2 本)：短
(バー 3 本)：長
(バー 4 本)：最長

ACC シフトアップ／シフトダウンリクエストアイコン “GEAR/” “GEAR/”
設定された車間距離とクルージングスピードを維持するためにギアシフトが必要である場合、ギヤポジション表示に点滅します。
GEAR/：ACC シフトアップリクエストアイコン
GEAR/：ACC シフトダウンリクエストアイコン

表示アイコン



低燃料表示 “”
フューエルタンク内の燃料残量が約 3.0 L 以下になると点灯します。

水温警告アイコン “”
エンジン冷却水温が高温になると、点灯します。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告アイコン “”
エンジン運転中に油圧が低下すると、点灯します。車両の電源をオンにしたときは、エンジン油圧が掛かっていないため、エンジンを始動するまで点灯します。

要 点

異常が検知されると、繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

補助システム警告アイコン “”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、点灯します。

SCU 警告アイコン “”
前後サスペンションに異常が検知されると、点灯します。

ネットワーク接続表示 “”
接続されているスマートフォンのネットワーク接続状態を示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：スマートフォンは接続されていますが、ネットワークに接続されていません。
：スマートフォンが接続されており、ネットワークに接続されています。アイコンのセグメントは電波の強度を示します。

スマートフォンのバッテリー残量レベル表示 “ ”
接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。
: スマートフォンが USB で接続されている状態を示します。

Bluetooth 接続表示 “ ”
Bluetooth 接続状態を示します。
アイコンなし：車両のBluetooth 機能が使用不可になっています。
：車両のBluetooth 機能は使用可能ですが、スマートフォンに接続されていません。
：車両のBluetooth 機能が使用可能で、スマートフォンが接続されています。

ヘッドセット表示 “ ”
Bluetooth ヘッドセットが車両に接続されると表示されます。ヘッドセットの接続をライダーとパッセンジャーで変更した場合と、2つ同時に接続した場合に、アイコンが変わります。

MyRide - Link アプリ表示 “App”
MyRide - Link アプリが車両に正常に接続されると表示されます。
App: 接続しているスマートフォンが高温になるとアイコンが黄色に変わります。

要　点

マルチファンクションメーターと CCU の間に通信エラーが発生した場合、アイコンが点滅します。

オーディオのミュート表示 “ ”
オーディオがミュート（消音）になっている場合に表示されます。

電話表示 “ ”/“ ”
通話中は緑色、不在着信があった場合は赤色のアイコンが表示されます。メニューシステムの “App Applications（アプリケーション）” → “ 電話 ” から直近の発着信履歴を開くと、不在着信のアイコンは消灯します。

通知表示 “ ”
接続されているスマートフォンが SNS やメールなどの通知を受信したときに表示されます。車両の電源をオフにするか、メニューシステムの “App Applications（アプリケーション）” → “ 通知 ” から通知を確認すると、アイコンは消灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンの MyRide - Link アプリが CCU に接続されている場合にのみ使用できます。
- 通知を確認するためには、スマートフォンの MyRide - Link アプリに通知へのアクセスを許可する必要があります。

グリップウォーマー表示 “ ”
グリップウォーマーは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。(5-23 ページ参照)
アイコンには、現在の設定状況が表示されます。
アイコンなし：切
: 低
: 中
: 高

JCA17932

注　意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

シートヒーター表示 “♨”（装備している場合）
シートヒーターは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-23 ページ参照）
アイコンには、現在の設定状況が表示されます。
アイコンなし：切
♨：低
♨：中
♨：高

JCA23980

注 意

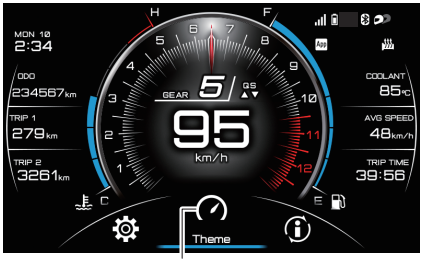
- **シートヒーターを使うときは、臀部や脚部を保護できる衣類を着用してください。**
- **外気温が 20°C 以上のときは、シートヒーターを高設定にしないでください。**
- **シートが擦り切れたり傷んだりしてきたときは、シートヒーターの使用を中止して、シートを交換してください。**

ETC 表示 “ETC”（オプション）
ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で “ETC” が表示されます。

YRC モード表示
YRC モード表示は、“SPORT” (SP)、“STREET” (ST)、“RAIN” (RN)、“CUSTOM” (CU) のうち、どの YRC モードが選択されているか表示されます。
YRC モードスイッチ “MODE” で選択し、メニューシステム画面でカスタマイズできます。（5-26 ページ参照）

JAUA0549

ポップアップメニューシステム



1. ポップアップメニュー

この車両のメニューシステムは、左側のハンドルにあるジョイスティックとホームボタンで操作できます。（5-4 ページ参照）

メインディスプレイからポップアップメニューを開く
- “⌂” を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔” を短押し

メニューの操作
- ジョイスティックを左右上下に操作し、メニュー項目を選択および表示します。
- “✔” を短押しして選択を実行します。
- “⌂” を短押しすると、前の画面に戻ります。
- “⌂” を長押ししてメニューを閉じます。

要　点

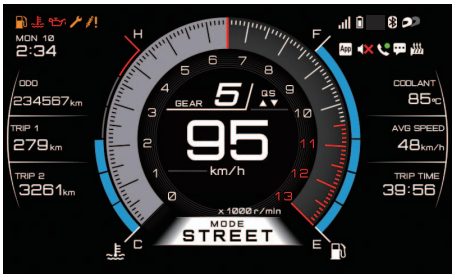
- メニューアイコンに “‹ ˆ ˇ ›”（矢印）が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、選択した機能の表示ができます。
- 一部のメニューページや項目には “<”（戻る）／“>”（進む）が表示されます。その場合は、ジョイスティックを指示された方向に操作して、画面の開閉ができます。
- 車両が動いているときは、ポップアップメニューの “SC Stability Control” と “⚙ Machine Settings” がグレー表示になります。

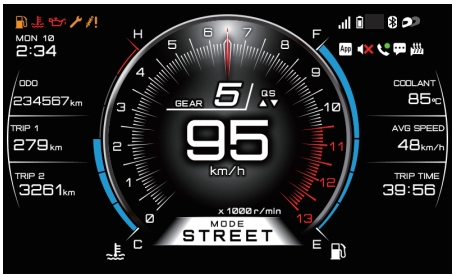
ポップアップメニューには、次の主な機能があります。

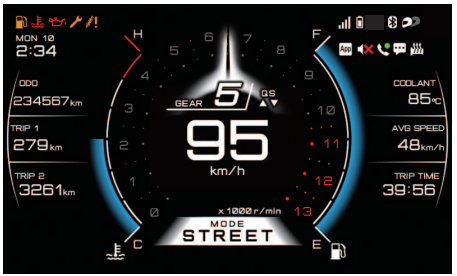
Theme	ディスプレイのビジュアルテーマを選択します。（5-15 ページ参照）
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替をします。（5-16 ページ参照）
Audio	ポップアップオーディオプレーヤーに接続します。（5-16 ページ参照）
App Applications	スマートフォンのアプリケーションメニューに接続します。（5-16 ページ参照）
TEL（着信時と通話中のみ）	通話するための電話機能を表示します。（5-22 ページ参照）
SC Stability Control	スタビリティコントロール（“TCS”, “SCS” and “LIF”）のオン／オフを設定します。（5-22 ページ参照）
Grip Warmer	グリップウォーマーの温度を調節します。（5-23 ページ参照）
Seat Heater（装備している場合）	シートヒーターの温度を調節します。（5-23 ページ参照）
⚙ Machine Settings	車両操作に関連する設定を変更します。（5-24 ページ参照）

Theme

メインディスプレイのビジュアルテーマは、3 つのテーマから選択できます。デザインに違いはありますが、機能は同じです。







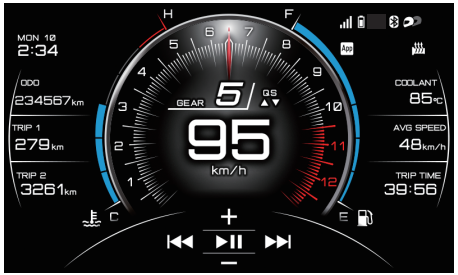
要　点

3 つのテーマにはそれぞれバリエーションがあり、YRC モードスイッチを使用して YRC モードを切り替えると表示が変わります。（5-4 ページ参照）

Vehicle Info

インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替ができます。(5-9 ページ参照)

Audio



ポップアップメニューに簡易オーディオプレーヤーが表示されます。“ Applications (アプリケーション)” →“ オーディオ ” から、フルオーディオプレーヤーを利用できます。(5-20 ページ参照)
ジョイスティックを上下に操作して音量の調整をします。ジョイスティックを左右に操作すると、前／次の曲にスキップします。“✔” を短押しして再生／一時停止を切り替えます。

Applications



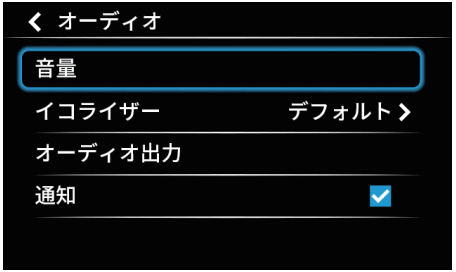
スマートフォンとBluetooth ヘッドセットに関連する機能を設定することができます。

設定	CCU 設定（オーディオ／接続／システム）
オーディオ	フルオーディオプレーヤー
電話	電話機能
通知	スマートフォン通知機能
天気	天気の情報に関する機能

要　点

- アイコンの順番は、MyRide - Link アプリを使用して整理することができます。
- CCU　に接続が行われていないアプリケーションのアイコンはグレー表示になります。

Applications (アプリケーション) → 設定 → オーディオ



接続されているBluetooth ヘッドセットの音量レベルを調節できます。“ 通知 ” はアラート音のオン／オフを選択できます。

要　点

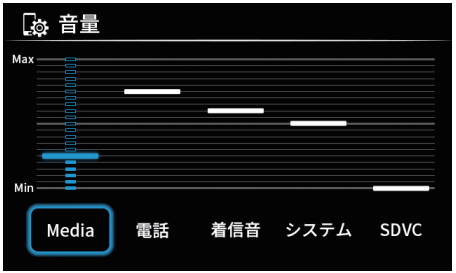
- ここで音量レベルを調節しても、接続されているスマートフォン側の音量設定は変更されません。音量レベルが大きすぎる場合や小さすぎる場合は、スマートフォンやヘッドセットの音量設定を確認してください。
- 通知音と着信音はスマートフォン側で設定されます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → 音量

JWA21430

⚠ 警 告

周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。



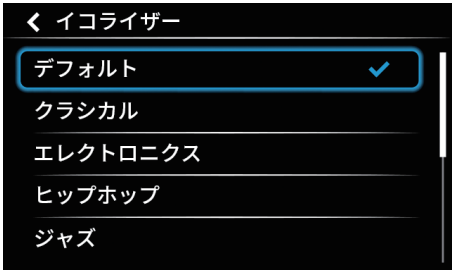
各機能の音量設定が調節できます。
Media：オーディオプレーヤーの音量（20 段階）
電話：通話音量（20 段階）

要 点

通話音量はポップアップメニューの電話機能でも調整できます。（4-8 ページ参照）

着信音：着信音の音量（10 段階）
システム：スマートフォンのシステム音量（10 段階）
SDVC：車速連動音量調節 (SDVC) は、走行速度に応じて音量を自動的に調整する機能です。（低／中／高／オフ）

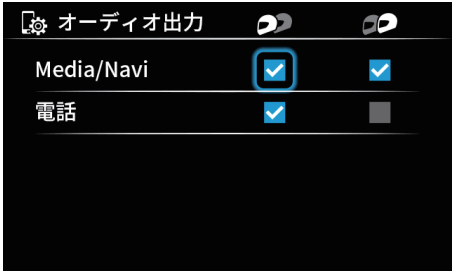
Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → イコライザー



オーディオ出力を、いろいろなイコライザープリセットから選択できます。プリセットされた出力レベルはジョイスティックで変更でき、“✔” を短押しすると確認できます。既存のプリセットを変更すると、“ カスタマイズ ” に保存されます。



Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → オーディオ出力

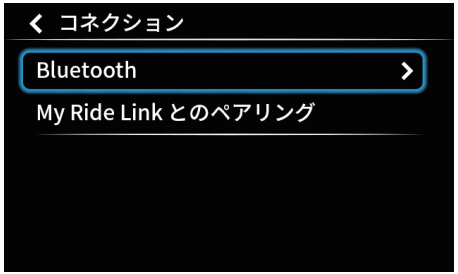


Bluetooth ヘッドセットを接続すると、“” ／“”がディスプレイ上部に表示されます。ここでは、Media/Navi と電話の音声出力先を、ライダーヘッドセット “” とパッセンジャーヘッドセット “” とで切り替えることができます。

要 点

電話の音声出力先として、一度に選択できるヘッドセットは 1 つだけです。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション



Bluetooth と MyRide - Link アプリへの接続が設定ができます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth

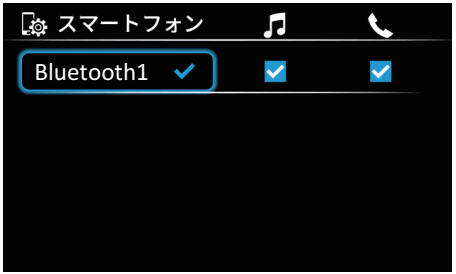


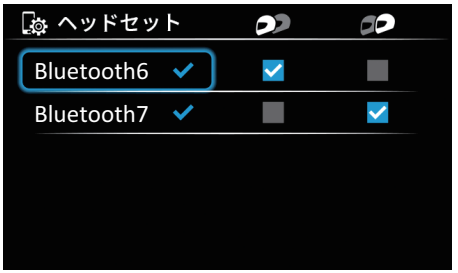
スマートフォンとヘッドセットへのBluetooth 接続の設定ができます。Bluetooth デバイスのペアリングと接続の手順については、4-3 ページと 4-6 ページを参照してください。

要　点

“Bluetooth 自動接続 ” が有効になっている場合、CCU は過去にペアリングされた利用可能な登録済みデバイスに自動的に接続します。“Bluetooth 自動接続 ” が無効になっている場合は、“ 登録済みデバイス ” でリストから接続したいデバイスを選択し、手動で接続する必要があります。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth → 登録済みデバイス





過去にペアリングされたデバイスのリストが表示されます。接続されると、デバイス名の横に青いチェックマークが表示されます。スマートフォンからの音声は、オーディオと電話とで選択できます。
Bluetooth ヘッドセットは、ライダーとパッセンジャーとで切り替えることができます。デバイス名を選択すると、そのデバイスの選択肢が表示されます。



5

選択したデバイスの接続（Bluetooth が有効な範囲内にある場合）、切断、またはペアリング履歴を削除できます。

要　点

- Bluetooth　のペアリング履歴をスマートフォンから削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetoothのペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴をスマートフォンから削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → MyRide Link とのペアリング

MyRide - Link アプリと CCU のペアリングまたは接続ができます。（4-4 ページ参照）

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → システム情報

現在のシステムソフトウェアのバージョンを表示し、USB メモリを使用して更新することができます。

CCU の更新ソフトウェアがリリースされることがあります。詳しくはヤマハ発動機のホームページを定期的にご確認ください。

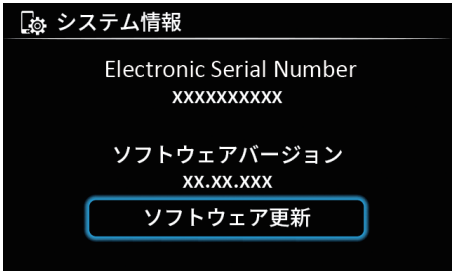
JCA27751

注 意

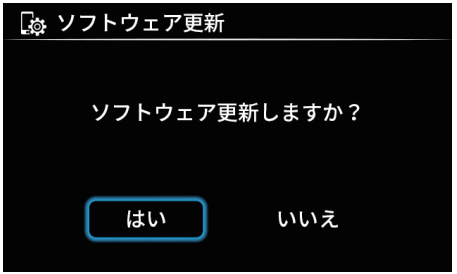
データ転送が完了するまで車両の電源はオンにしたまま、USB メモリは取り外さないでください。

システムソフトウェアを更新する

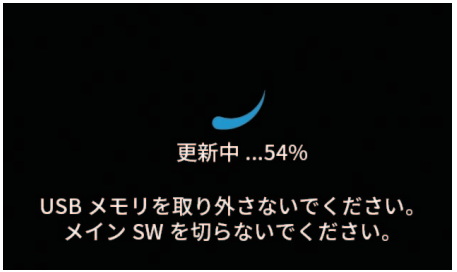
1. ヤマハ発動機のホームページにアクセスして、最新の更新ソフトウェアをUSBメモリにダウンロードし、USB ジャックに接続します。（5-41 ページ参照）



2. “ソフトウェア更新”を選択します。



3. “はい”を選択して、ソフトウェアの更新を開始します。更新が適切に完了すると、“完了しました。”と表示されます。



要　点

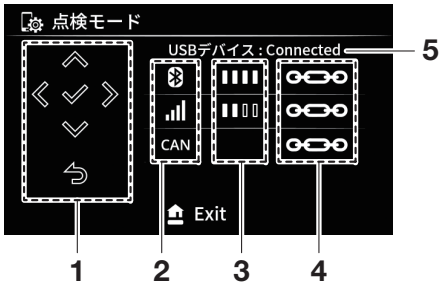
更新が完了するまで、車両の電源をオフにしたり、USB メモリを取り外したり、車両を動かしたりしないでください。

JCA27740

注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 点検モード
CCU への接続、ジョイスティック、ホームボタンの状態が表示されます。



1. ジョイスティック／ホームボタンの状態
2. 接続の種類
3. 信号強度
4. 接続状態
5. USB デバイス名と接続状態

接続の種類は次のとおりです。
：Bluetooth
：モバイルネットワーク
CAN：CAN（コントローラエリアネットワーク：CCU とマルチファンクションメーターとの接続）

接続状態の種類は次のとおりです。
：接続されています
：切断されました
：接続状態不明です

要 点

この画面は、ホームボタンを短押ししても閉じません。ホームボタンを長押しして閉じてください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 法的情報
ソフトウェアのサードパーティライセンスは、こちらで確認できます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → リセット
CCU と関連するすべての設定、ペアリング、および保存されたデータのリセットができます。

要 点

- リセット後、CCU は数分で再起動します。
- 車両を売却または譲渡する前に、CCU をリセットしてスマートフォンのすべての個人データ（通話履歴や連絡先情報など）を削除してください。
- CCUがリセットされたら、Bluetoothのペアリング履歴と MyRide - Link アプリのペアリング履歴をスマートフォンから削除してください。削除しない限り、CCU とそのスマートフォンを再びペアリングすることができません。
- 走行中は、CCU をリセットすることはできません。

Applications（アプリケーション）→ オーディオ



1. ブラウズ
2. 戻る／次へ
3. 再生／一時停止
4. リピートなし／すべてリピート／１曲をリピート
5. シャッフル
6. 音量レベル

ジョイスティックを上下に操作して、音量レベルを調整できます。ジョイスティックを左右に操作して各機能（ブラウズ、戻る／次へ、再生／一時停止、リピートなし／すべてリピート／１曲をリピート、シャッフル）を選択し、“✔”を短押しして選択を実行します。



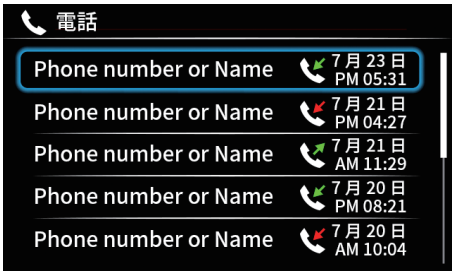
楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションから取り込まれます。

要　点

- 接続しているスマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションを先に起動する必要がある場合があります。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、オーディオプレーヤーが自動的に再生したり、“オーディオ” 画面の機能が使用できない場合があります。

Applications（アプリケーション）→ 電話

通話中でない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。



直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔” を短押しすると通話が開始されます。

: 発信（緑）
: 不在着信（赤）
: 着信（緑）

要　点

- 同じ連絡先からの発着信は、連絡先の横に回数が表示されます。
- 発着信履歴は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い履歴から削除されます。

リストから名前または番号を選択して通話を開始すると、通話中の画面が表示されます。



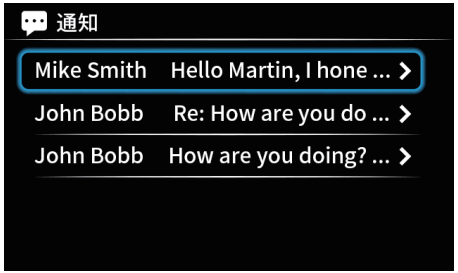
1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え（Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン）

音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。
通話終了アイコンを選択し、“✔” を短押しすると通話が終了します。

要　点

- ホームボタンでこの画面を閉じても、通話は終了しません。（5-22 ページ参照）
- 連絡先情報を CCU にダウンロードするには、スマートフォン側でアクセス許可をする必要があります。
- 連絡先情報のダウンロードには時間がかかる場合があります。ダウンロードが完了する前に電話がかかってきた場合は、電話番号のみが表示されます。

Applications（アプリケーション）→ 通知

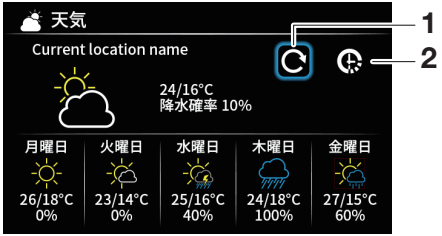


接続されたスマートフォンからの通知のリスト（車両とペアリングされた以降）が表示されます。選択したメッセージを開いて内容を確認できます。接続しているスマートフォンから通知を受信すると、通知表示アイコン“💬”が表示されます。通知を選択し“✔”を短押しすると、メッセージが表示されます。

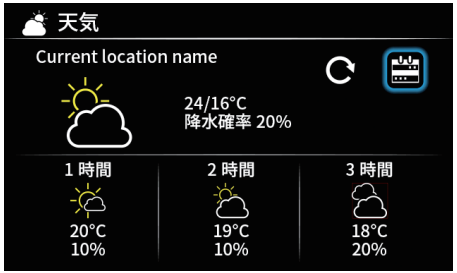
要　点

- 新しい通知をすべて確認すると、通知表示アイコン“💬”は消灯します。
- 通知は最大 100 件まで保存されます。上限に達すると、古い通知から削除されます。
- 長いメッセージだと、すべてを表示できない場合があります。
- 走行中は、メッセージを開いたり読んだりすることはできません。

Applications（アプリケーション）→ 天気

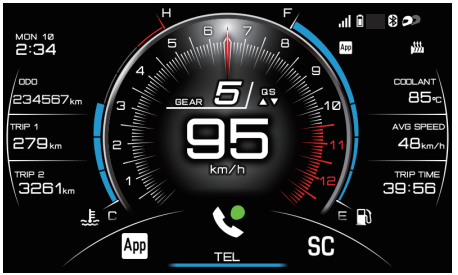


1. 更新
2. 予報間隔



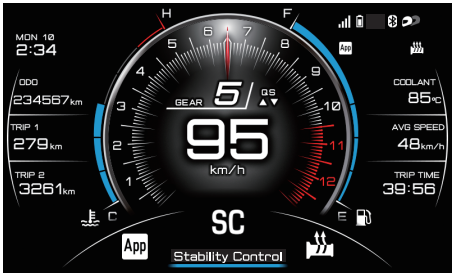
天気情報が表示されます。更新アイコンを選択すると、更新された天気情報が表示されます。予報間隔アイコンから、天気情報の予報間隔を変更できます。

TEL



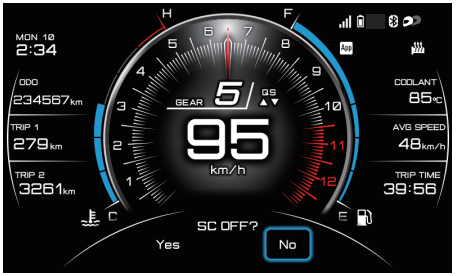
着信時および通話中に、ポップアップメニューに表示されます。選択すると、ディスプレイ下側の電話機能が開きます。(4-8 ページ参照)

SC Stability Control（スタビリティコントロール）

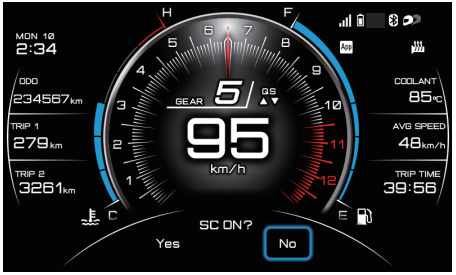


5

スタビリティコントロールは、トラクションコントロールシステム（TCS）、スライドコントロールシステム（SCS）、リフトコントロールシステム（LIF）のオン／オフをまとめて、切り替えることができます。スタビリティコントロール表示灯 “SC” で、現在の設定状況を確認できます。（5-7 ページ参照）



スタビリティコントロールがオンの場合は、オフにするかどうかの確認画面が表示されます。

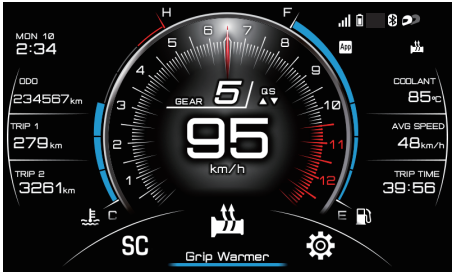


スタビリティコントロールがオフの場合は、オンにするかどうかの確認画面が表示されます。

要　点

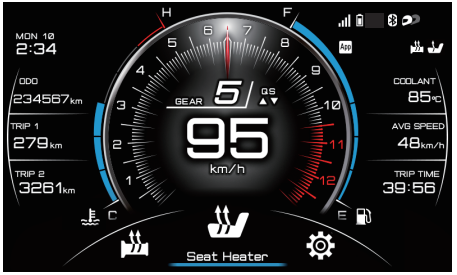
- 車両が動いているときは、ポップアップメニューの “SC Stability Control” がグレー表示になります。
- 車両の電源をオンにすると、スタビリティコントロールはオンになります。
- スタビリティコントロールをオフにすると、スタビリティコントロール（トラクションコントロールシステム（TCS）、スライドコントロールシステム（SCS）、リフトコントロールシステム（LIF））がまとめてオフになります。

Grip Warmer



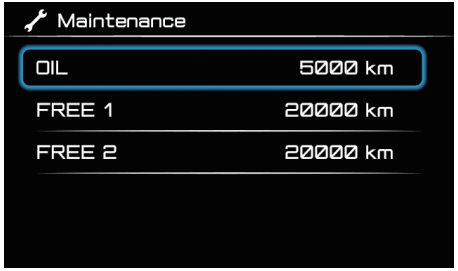
グリップウォーマーは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は “Machine Settings” → “Grip Warmer” から調整することができます。（5-25 ページ参照）
ディスプレイの右上にあるグリップウォーマー表示は、現在選択されている温度設定を表します。

Seat Heater（装備している場合）



シートヒーターは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は “Machine Settings” → “Seat Heater” から調整することができます。（5-25 ページ参照）
ディスプレイの右上にあるシートヒーター表示は、現在選択されている温度設定を表します。

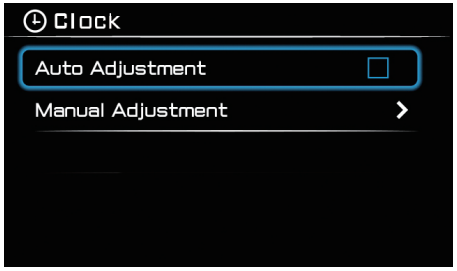
Machine Settings → Maintenance





エンジンオイルの交換 “OIL” およびお好みのメンテナンス項目 “FREE1”“FREE2” の、メンテナンス後の走行距離が表示されます。
いずれかの項目のメンテナンスが完了したら、“✔” を短押しして選択し、リセットをしてください。

Machine Settings → Clock

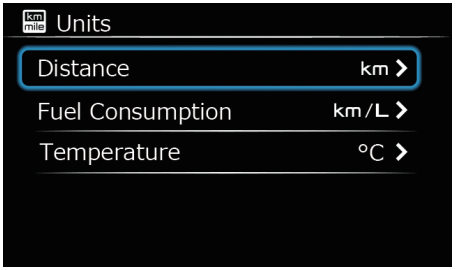


時計はスマートフォンと同期して自動調整するように設定できます。自動調整をするには、MyRide - Link アプリと CCU を接続してください。(4-1 ページ参照)
“Manual Adjustment” を選択すると、時刻を手動で調整することができます。



時計を手動で調整するには、ジョイスティックを左右に操作して項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して項目を調整します。“✔” を短押しすると、時計が設定され、前のメニューに戻ります。

Machine Settings → Units



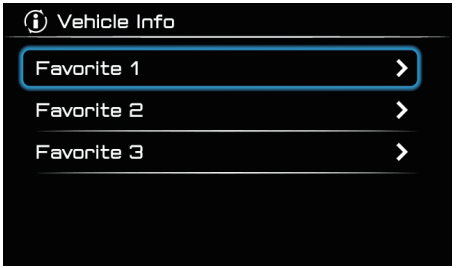
ディスプレイの表示単位は次のように変更できます。

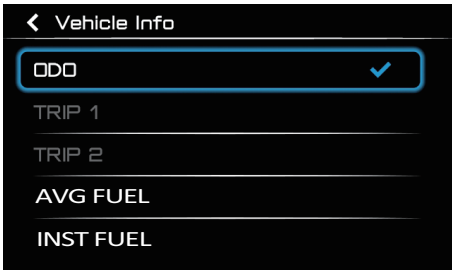
- Distance（距離）：“km” または “mile”
- Fuel Consumption（燃費）：“km/L”、“L/100km” または “MPG”
- Temperature（温度）：“°C” または “°F”

要　点

距離単位に “mile” を選択すると、燃費単位は自動的に “MPG” に変更されます。その場合、“Fuel Consumption” はグレー表示になり、選択できません。

Machine Settings → Vehicle Info



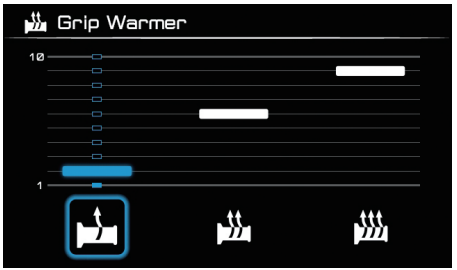


インフォメーションディスプレイの中から、お気に入りを 3 つ選択できます。お気に入りの項目が右側のインフォメーションディスプレイに表示されます。(5-16 ページ参照)

要　点

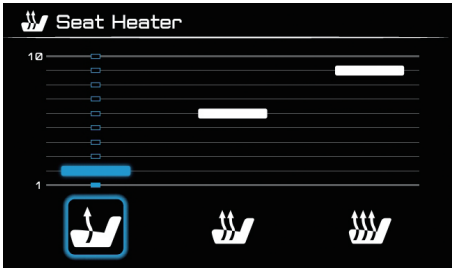
メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、画面上部にお気に入り項目が 1 つだけ表示されます。(5-8 ページ参照)

Machine Settings → Grip Warmer



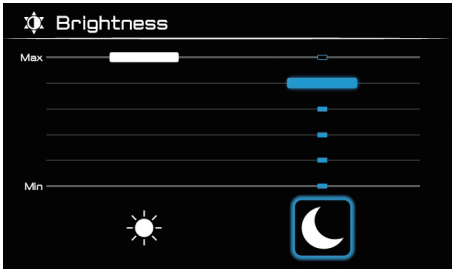
グリップウォーマーには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。ジョイスティックを左右に操作して温度設定を選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

Machine Settings” → “Seat Heater(装備している場合)



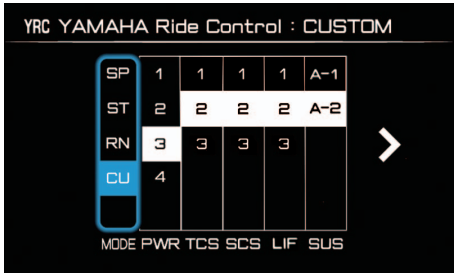
シートヒーターには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。ジョイスティックを左右に操作して温度設定を選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

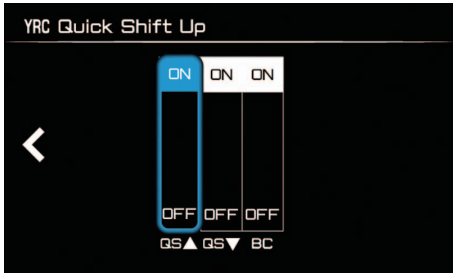
Machine Settings → Brightness



マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知しディスプレイの明るさを昼／夜で切り替えるセンサーが装備されています。ディスプレイの明るさは昼／夜のそれぞれで調整することができます。
ジョイスティックを左右に操作して昼／夜を選択し、ジョイスティックを上下に操作して明るさを 1-6 段階で調整します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

⚙ Machine Settings → YRC Setting





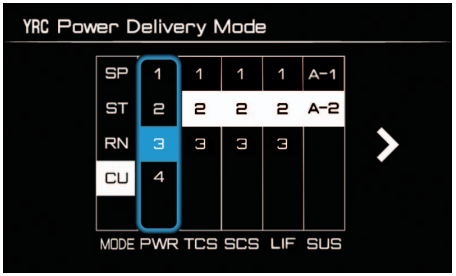
以下の設定ができます。
- YRC モードを “SPORT” (SP)、“STREET” (ST)、“RAIN” (RN)、“CUSTOM” (CU) の中から選択します。
- “CUSTOM” (CU) を選択した場合は、“PWR”、“TCS”、“LIF”、“SUS” の設定を変更することができます。

ジョイスティックを左右に操作して設定項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して設定値を変更します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

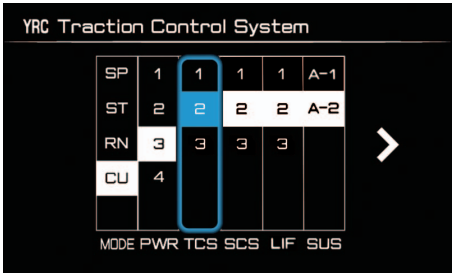
- クイックシフターと BC（ブレーキコントロール）の設定は、すべての YRC モードで適用されます。
- “SC Stability Control” がオフのとき、“TCS”、“SCS”、“LIF” の設定はグレー表示になります。

PWR (Power delivery mode)



スポーティなエンジン出力の設定には PWR-1、スムーズなエンジン出力の設定には PWR-2、マイルドなエンジン出力の設定には PWR-3、雨天時などエンジン出力を抑えたい場合には PWR-4 を選択します。(3-13 ページ参照)

TCS (Traction control system)



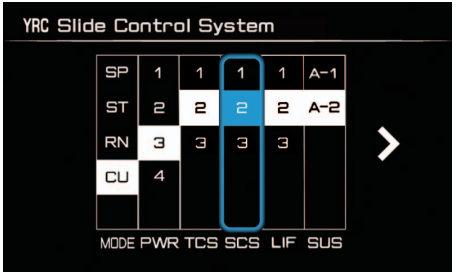
5

この車両は、可変トラクションコントロールシステムが装備されています。各設定レベルにおいて、車体を大きく傾けるほど、トラクションコントロール（システム介入）が強くなります。設定レベルは 3 段階あり、TCS-1 が最もシステム介入が少なく、TCS-3 が最大となります。（3-13 ページ参照）

要　点

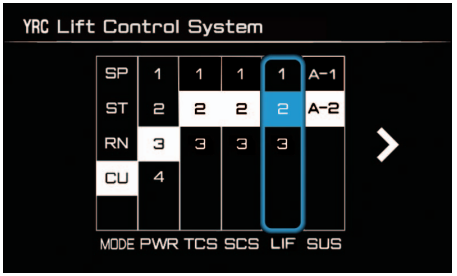
トラクションコントロールシステムは、メニュー画面の “SC Stability Control” からのみ、完全にオフにすることができます。（5-22 ページ参照）

SCS (slide control system)



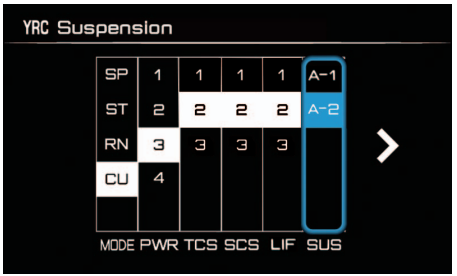
SCS-1、SCS-2、SCS-3 に設定することができます。SCS-1 は、システムへの介入が最小で、SCS-3 では、最大となります。（3-14 ページ参照）

LIF (lift control)



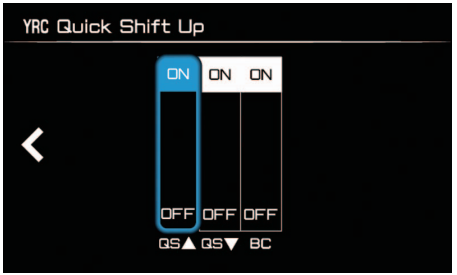
LIF-1、LIF-2、LIF-3 に設定することができます。LIF-1 は、システムへの介入が最小で、LIF-3 では、ホイールの浮き上がりを最も強く抑制します。（3-14 ページ参照）

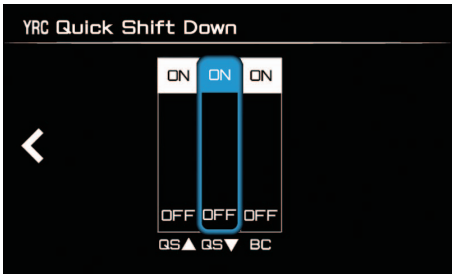
SUS（電子制御サスペンション）



A-1 と A-2 に設定することができます。A-1 は減衰力が強めのスポーツセッティングで、平坦な路面環境に適しています。A-2 は減衰力が弱めのセッティングで、荒れた路面環境に適しています。（3-14 ページ参照）

QS△ / QS▽（クイックシフター）



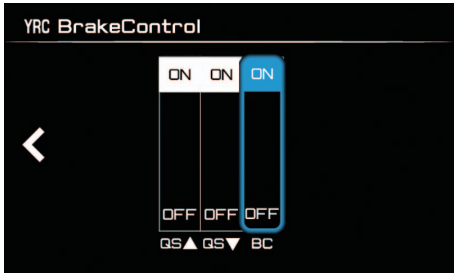


“QS △” (シフトアップ) および “QS▽” (シフトダウン) は、個別にオンまたはオフに設定することができます。((3-14 参照) ページ参照)
シフトアップまたはシフトダウン機能をオフにした場合、クラッチレバーを使用して、シフトアップまたはシフトダウンする必要があります。

要　点

クイックシフターの設定をすると、クイックシフター表示に反映されます。

“BC” (ブレーキコントロール)



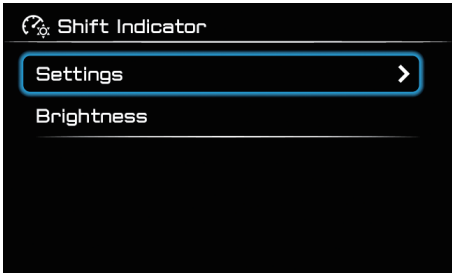
BC が OFF：標準の ABS のみがアクティブです。
BC が ON：標準の ABS 制御に加え、ユニファイドブレーキシステム（UBS）、レーダー連携ユニファイドブレーキシステム（UBS）とコーナリングアシストブレーキがすべて有効になります。

ブレーキシステムの詳細については、3-9ページを参照してください。

要　点

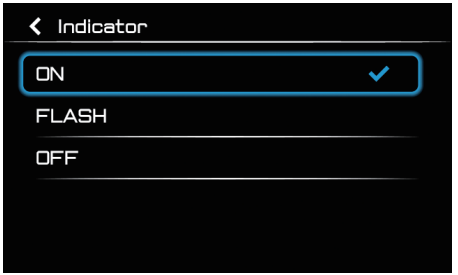
BC がオンになっているとき、さまざまな条件によって、高次元のライディングやサーキット走行で望まれるコーナリングラインで走行した場合、BC が予想以上に速く動作してしまうことがあります。

Machine Settings → Shift Indicator



シフトタイミングインジケーターランプの設定を変更できます。

Machine Settings → Shift Indicator → Settings → Indicator



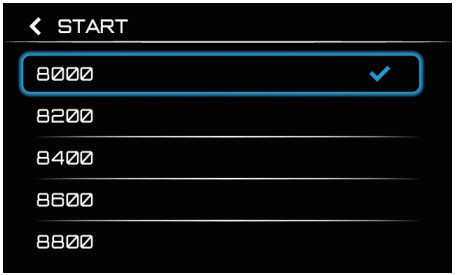
設定したエンジン回転数に達したとき、シフトタイミングインジケーターランプを点灯させるには “ON”、点滅させるには “FLASH”、消灯させるには “OFF” を選択します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

選択した設定に応じて、シフトタイミングインジケーターランプが点灯または点滅します。

5

Machine Settings → Shift Indicator → Settings → START

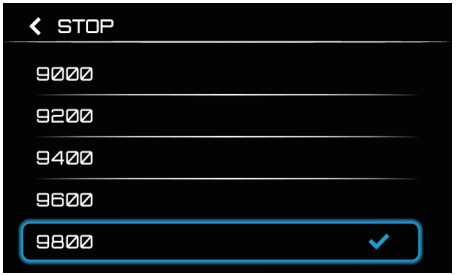


シフトタイミングインジケーターランプが点灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。6000–11800 r/min の間で、200 r/min 単位で調整できます。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

“START” は “STOP” より低い回転数（r/min）で設定されます。

Machine Settings → Shift Indicator → Settings → STOP



シフトタイミングインジケーターランプが消灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。6200–12000 r/min の間で、200 r/min 単位で調整できます。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

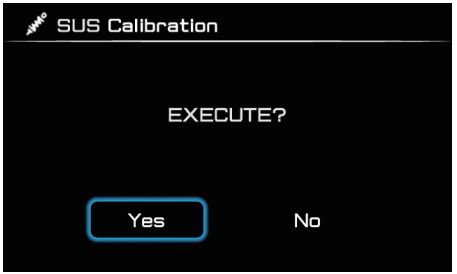
- “START” は “STOP” より低い回転数（r/min）で設定されます。
- ギヤがニュートラルまたは 6 速のとき、シフトタイミングインジケーターランプは点灯しません。

Machine Settings → Shift Indicator → Brightness



ジョイスティックを上下に操作して、シフトタイミングインジケーターランプの明るさを 1–6 の間で選択します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

“Machine Settings” → SUS Calibration

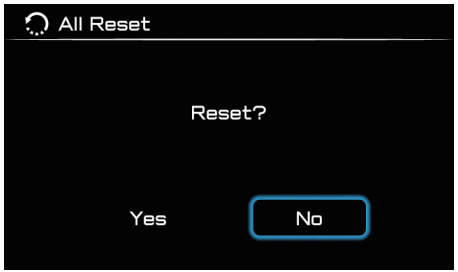


リヤサスペンションの修理を行った場合、センサーのキャリブレーションを行う必要があります。
“Execute” を押すと、10 秒以内にキャリブレーションの結果 [“Success”（成功）または “Failed”（失敗）] が表示されます。

要　点

キャリブレーションを行うときは、メインスタンドを立て、車両に荷重がかからないようにしてください。

Machine Settings → All Reset



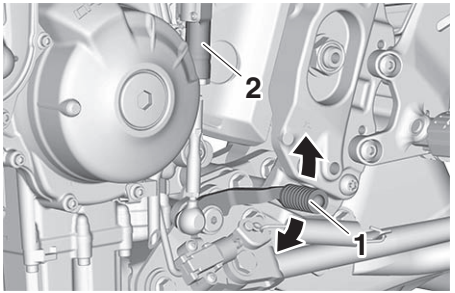
ディスプレイの明るさ、グリップウォーマー／シートヒーターの設定、トラクションコントロール、単位など、インフォメーションディスプレイのリセット可能なすべての設定をリセットします。

要　点

このリセットはCCUには影響しません。CCUをリセットするには、5-20 ページを参照してください。

JAU83692

シフトペダル



1. シフトペダル
2. シフトセンサー

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。（7-2 ページ参照）
シフトロッドには、クイックシフターの一部であるシフトセンサーが装備されています。シフトセンサーは、シフトペダルを動かしたときの上下の動きと入力の強さを読み取ります。

要　点

意図しないギヤチェンジを防ぐため、クイックシフターは不明確な入力信号を無視するようプログラムされています。ギヤチェンジするときは、素早く十分な強さで操作してください。

フューエルタンクキャップ

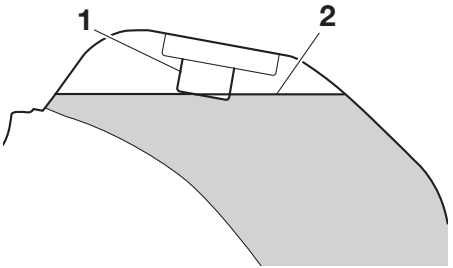
JAU13077

JWA12172

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
　無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
　約 18 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

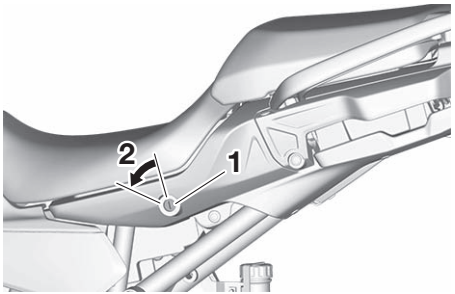
JAU92640

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。

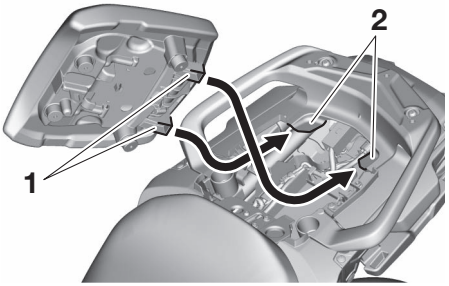


1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、タンデムシートの前部を押し下げてタンデムシートをロックします。



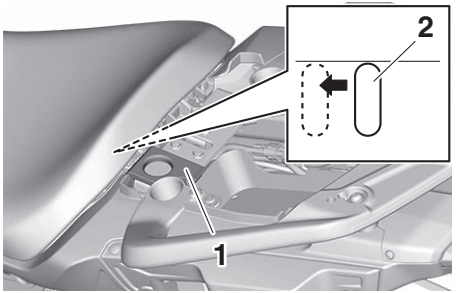
1. 突起
2. シートホルダー

2. キーを抜き取ります。

ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

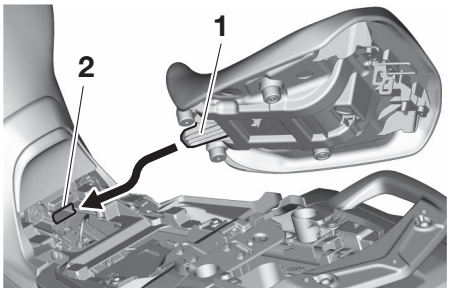
1. タンデムシートを取り外します。
2. キャップを外し、ライダーシート後部の下にあるライダーシートロックレバーを図のように左に押して、ライダーシートを取り外します。



1. キャップ
2. ライダーシートロックレバー

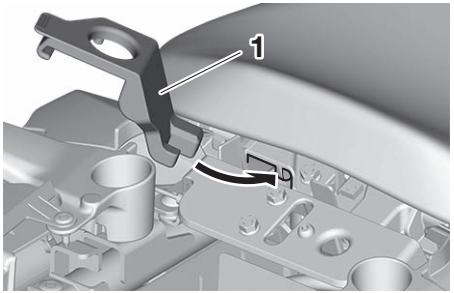
ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、シートの後部を押し下げてロックします。



1. 突起
2. シートホルダー

2. キャップを取り付けます。



1. キャップ

3. タンデムシートを取り付けます。

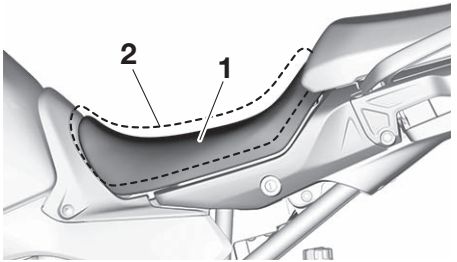
要　点

- 走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。
- ライダーシートは高さを調整できます。次の項目を参照してください。

JAU92633

ライダーシートの高さ調整

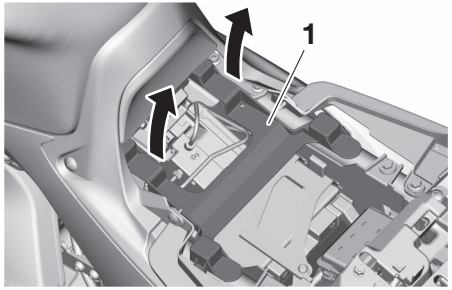
ライダーシートの高さは、運転者の好みに合わせて2つの位置のうちどちらかに調整することができます。



1. 低い位置
2. 高い位置

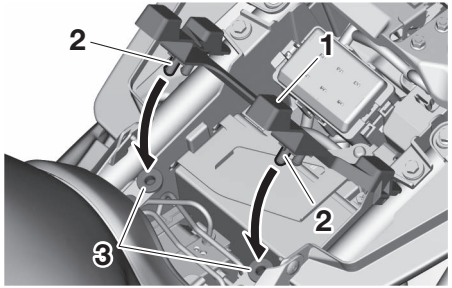
高い位置に変更するには

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。



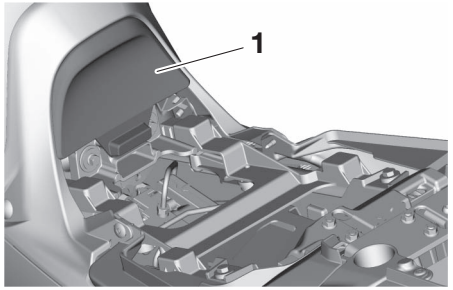
1. ライダーシートハイトアジャスター

3. 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの前部にある突起をグロメットに差し込みます。



1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

4. ゴムカバーを取り外します。

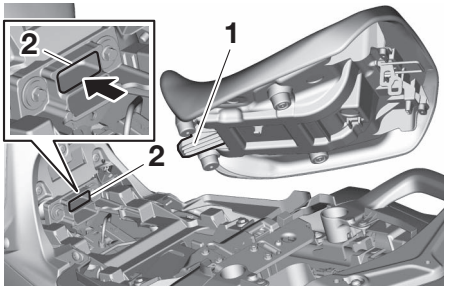


1. ゴムカバー

要　点

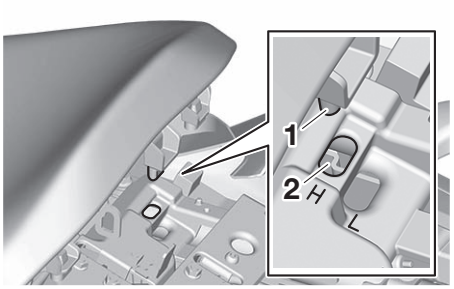
ゴムカバーは無くさないようにしてください。

5. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー B に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー B（高い位置用）

6. 図のように、ライダーシート底部の突起を “H” 位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。

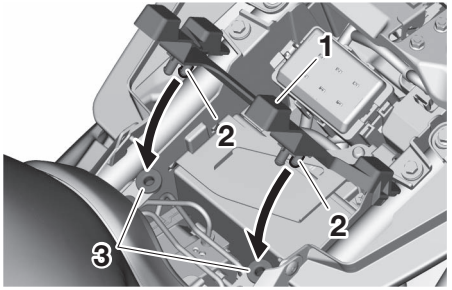


1. 突起
2. “H” 位置の溝

7. タンデムシートを取り付けます。

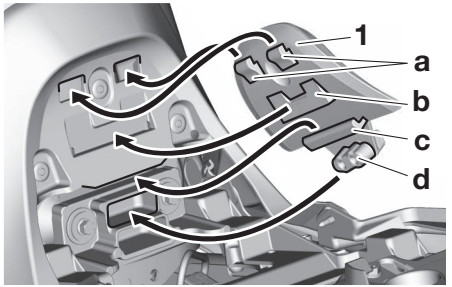
低い位置に変更するには

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。
3. 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの後部にある突起をグロメットに差し込みます。



1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

4. ゴムカバーを取り付けます。

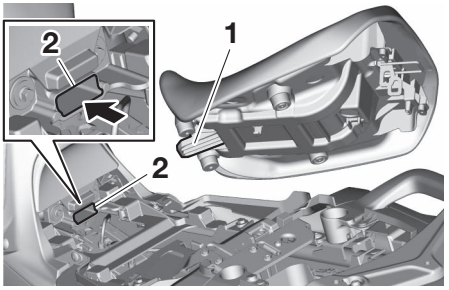


1. ゴムカバー

要　点

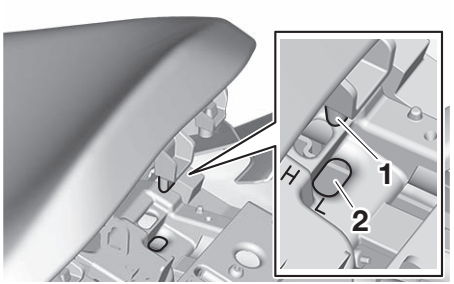
a から d の順番に突起を差し込みます。

5. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー A に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー A（低い位置用）

6. 図のように、ライダーシート底部の突起を “L” 位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。



1. 突起
2. “L” 位置の溝

7. タンデムシートを取り付けます。

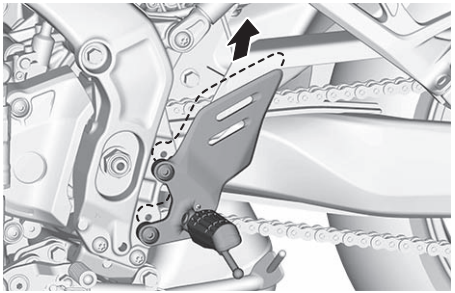
要　点

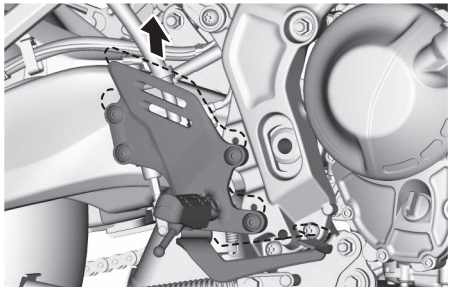
走行前に、必ずシートが正しく固定されていることを確認してください。

JAU91560

ライダーフートレスト位置の調整

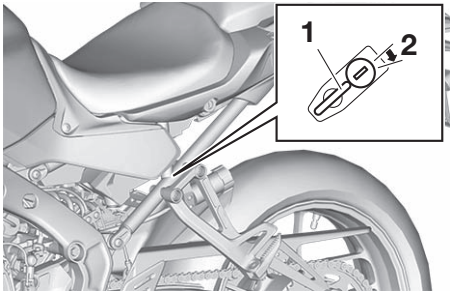
ライダーフートレストは、2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。工場出荷時、フートレストは低い位置に調整されています。フートレスト位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。





JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU62413

書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（5-37 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにして小物入れに保管してください。

JCA28461

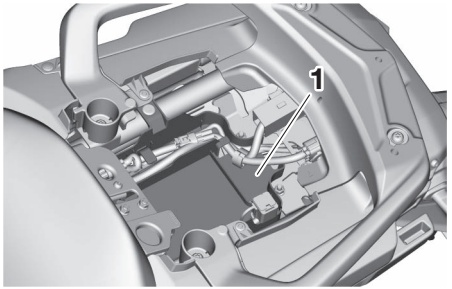
注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。

5

JAU14465

小物入れ



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。(5-32 ページ参照)

JWA12431

⚠ 警 告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 3 kg を越えないでください。

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。**

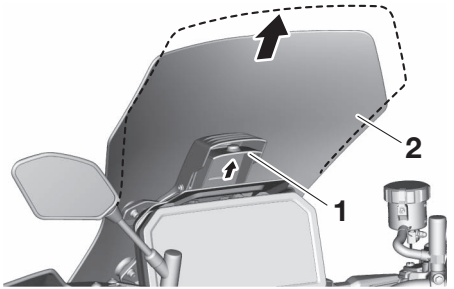
要 点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

JAUA0630

ウインドスクリーン

この車は、調整可能なウインドスクリーンを装備しています。



1. ウインドスクリーンロックレバー
2. ウインドスクリーン

ウインドスクリーンの高さを調整するには、ウインドスクリーンロックレバーを上げたまま上下に動かし、好みの位置でレバーを離します。

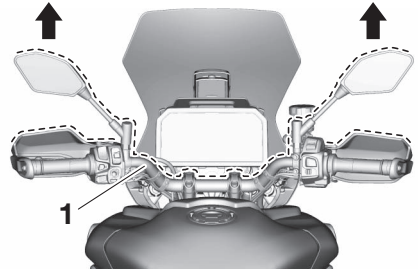
要 点

走行前に、必ずウインドスクリーンとロックレバーが確実にロックされていることを確認してください。

JAU46833

ハンドル位置の調整

ハンドルは、運転者の好みに合わせて 2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。

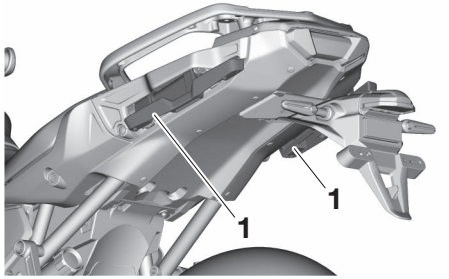


1. ハンドル

JAU99580

サイドケースホルダー

この車にはサイドケースホルダーが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。



1. サイドケースホルダー

JAU0641

フロントフォークおよびリヤクッションの調整

このモデルには、電子制御サスペンションシステム (KADS) が装備されています。“KADS” および “YRC Setting” についての詳細は、3-14 ページ、5-26 ページを参照してください。

要　点

リヤサスペンションの修理を行った場合、メニュー画面よりセンサーのキャリブレーションを行う必要があります。キャリブレーションの詳細については、5-29 ページを参照してください。

フロントフォークのスプリングプリロード

JWA14671

⚠警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

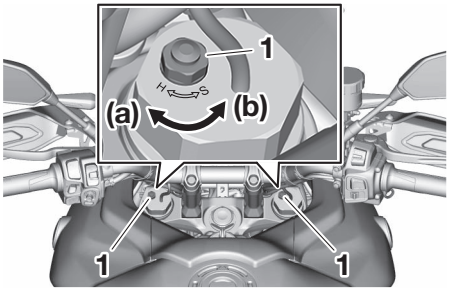
JCA27260

注 意

サスペンション調整時には、アルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を払ってください。

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 0 回転
標準：
(a) 方向へ 2 回転
最大（ハード）：
(a) 方向へ 10 回転

リヤクッションのスプリングプリロード

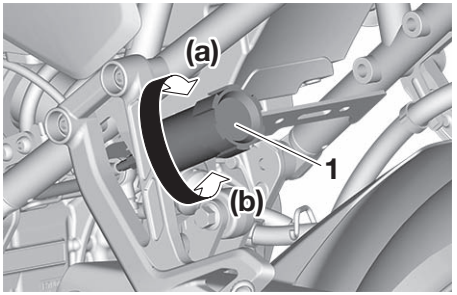
JWA10222

⚠ 警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

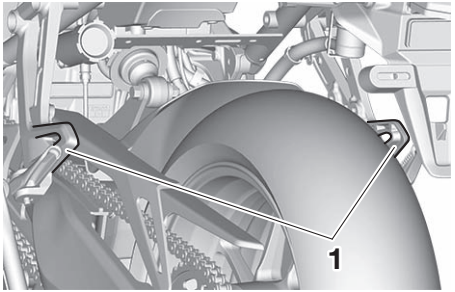
スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a) 方向へ 1 段
標準：
(a) 方向へ 11 段
最大（ハード）：
(a) 方向へ 24 段

要 点

アジャスターを (b) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

JAU84680

荷掛けフック



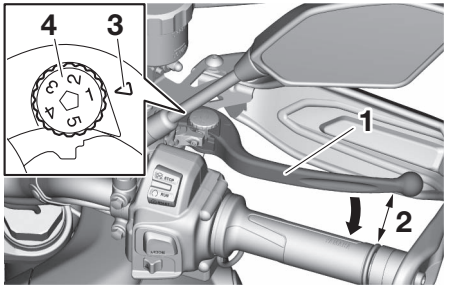
1. 荷掛けフック

図に示した荷掛けフックを使用し、荷物を固定します。

JAU45543

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

要　点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU70642

DC コネクター

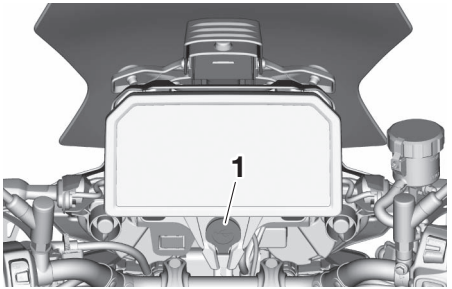
この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

5

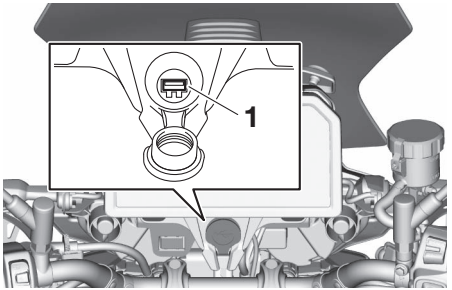
JAU99630

USB ジャック

この車には、5V の USB ジャックが搭載されています。車両の電源がオンのときに使用できます。



1. USB ジャックキャップ



1. USB ジャック

要　点

状況によっては、デバイスを USB に接続していてもデバイスのバッテリー残量が低下する場合があります。

JCA27711

注 意

USB ジャックを水や衝突から保護するために、USB　ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。

JAU92960

ETC コネクター

この車にはETCコネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

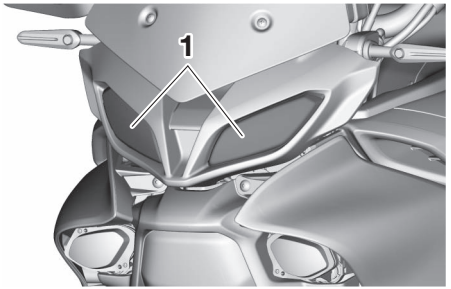
JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU94930

コーナリングライト



1. コーナリングライト

この車両は左右にコーナリングライトを装備しています。
車体を傾けたとき、傾いた側のコーナリングライトが点灯し、道路を照らします。

JAU44905

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。
イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、5-2 ページ、5-3 ページを参照してください。

JWA11552

⚠警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店で車の点検を受けてください。**

エンジンが停止した状態で：
1. メインスタンドを立てます。
2. サイドスタンドを下ろします。
3. エンジンストップスイッチをオンにします。
4. メインスイッチをオンにします。
5. ギヤをニュートラルに入れます。
6. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
7. サイドスタンドを上げます。
8. クラッチレバーを握ります。
9. ギヤを入れます。
10. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　**いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
11. サイドスタンドを上げます。
12. クラッチレバーを握ります。
13. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6300 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU91411

エンジン始動

JWA11562

⚠警 告

- **エンジンを始動するときには、5-42 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが “⎔” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

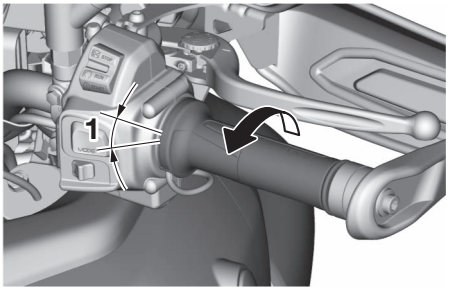
要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの “⏲” 側を押して、エンジンを始動します。

要　点

- スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。
- エンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/4 回転（20°）開けた状態で再度始動してください。



1. 1/4 回転（20°）

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

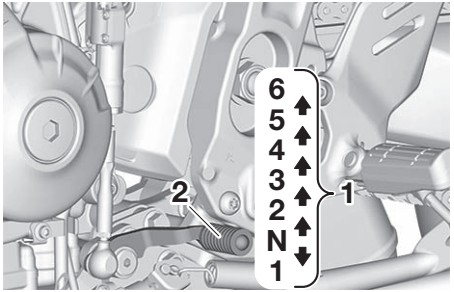
JAU68221

要　点

この車は、以下の機構を装備しています。
- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU91544

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

- ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフターを装備しています。（3-14 ページ参照）

JCA22523

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **クイックシフターを用いる場合を除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度
- 1 速 : 0 km/h–95 km/h
- 2 速 : 20 km/h–130 km/h
- 3 速 : 25 km/h–155 km/h
- 4 速 : 30 km/h–180 km/h
- 5 速 : 35 km/h–180 km/h
- 6 速 : 40 km/h 以上

シフトダウン速度
- 6 速 → 5 速 : 170 km/h 以下
- 5 速 → 4 速 : 145 km/h 以下
- 4 速 → 3 速 : 125 km/h 以下
- 3 速 → 2 速 : 100 km/h 以下
- 2 速 → 1 速 : 75 km/h 以下

JWA20720

⚠警 告

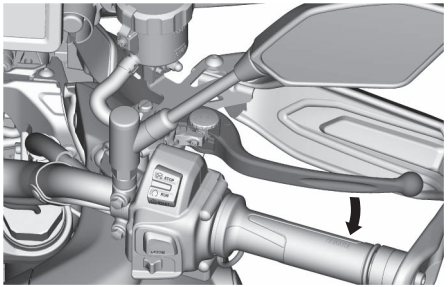
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

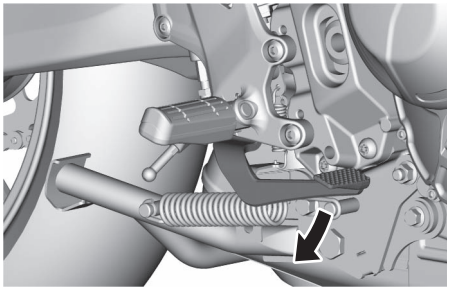
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JCA26500

注 意

- **上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。**
- **不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。**

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

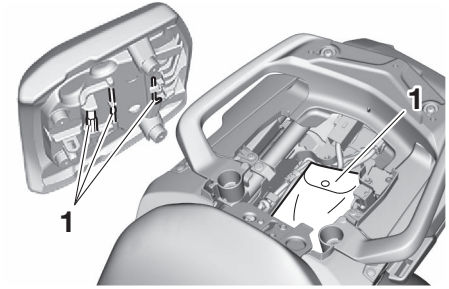
要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

8

JAU85230

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

JAU30457

エンジンオイル

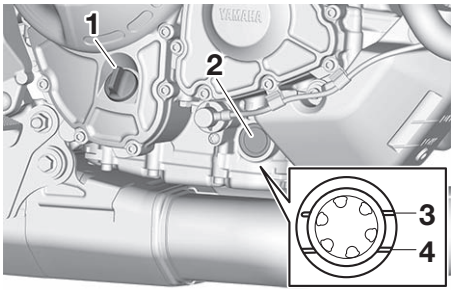
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

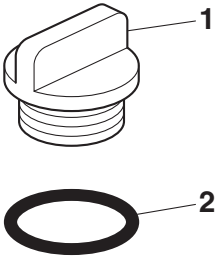


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-3 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時：
2.80 L
オイルフィルター取り外し時：
3.20 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

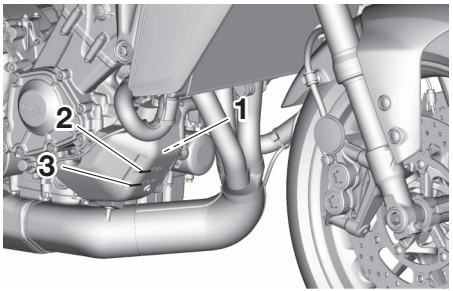
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



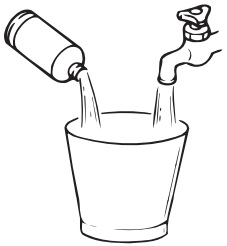
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を１対１で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠警　告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

8

JCA12112

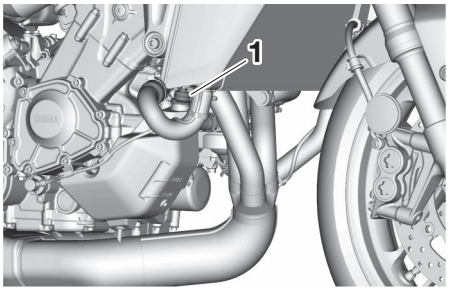
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765

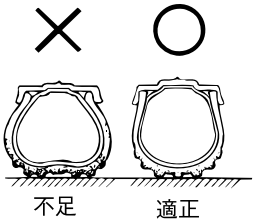
エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

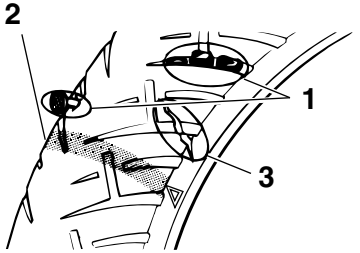
タイヤ空気圧（冷間時）：
1名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
2名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗
タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ
タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

8

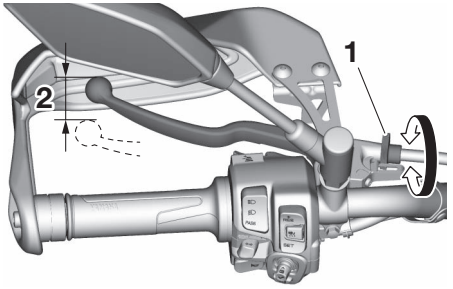
タイヤサイズ：
前輪：
120/70ZR17M/C (58W)
後輪：
180/55ZR17M/C (73W)
指定タイヤ：
前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32F
後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32R

JAU45563

クラッチ

クラッチレバーの遊び
クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
5.0–10.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

JWA11841

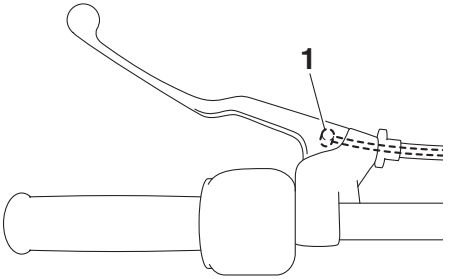
⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA16283

注 意

1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。



1. ケーブル取り付け部

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

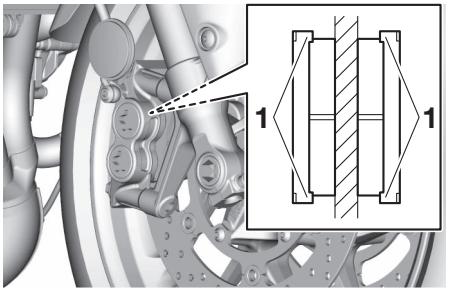
JAU49291

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

＜フロントブレーキ＞

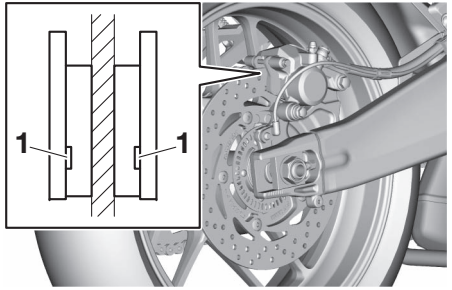
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞

ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

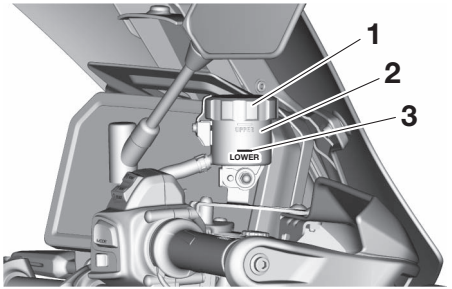


1. インジケーター溝

JAU44233

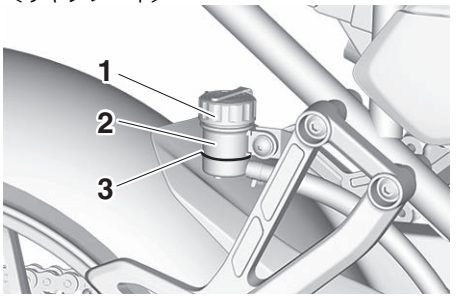
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

8

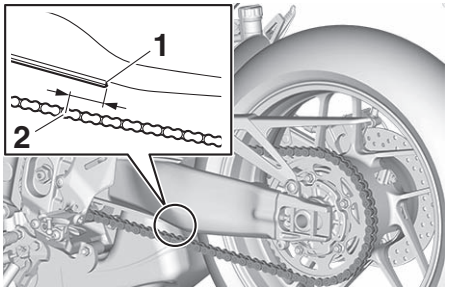
JAU22762

ドライブチェーン

JAU92611

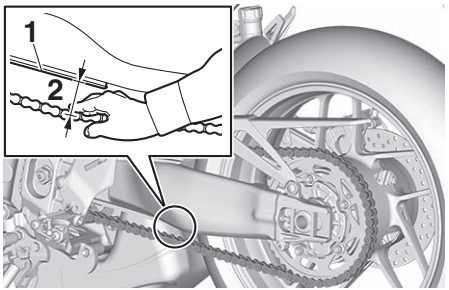
ドライブチェーンの点検

1. ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立てます。
2. 図のように、ドライブチェーンガードの端から前方へ 53 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント B）を見つけます。



1. ドライブチェーンガード端
2. ポイント B

3. ドライブチェーンの中間位置（ポイント B）を手で下側に押します。このとき、ドライブチェーンガードの下側からポイント B までの長さ（セット長 A）が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

要　点

セット長 A（ドライブチェーンのたわみ量）を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A：
45.0–50.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が 55.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

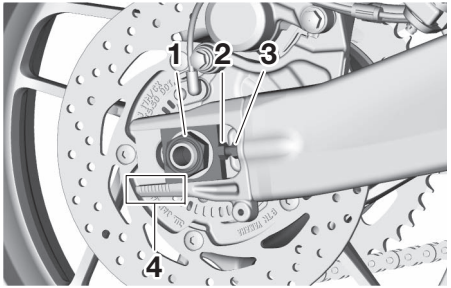
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

5. 車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

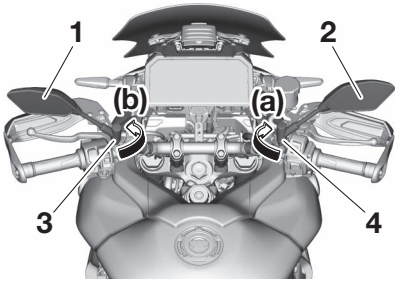
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

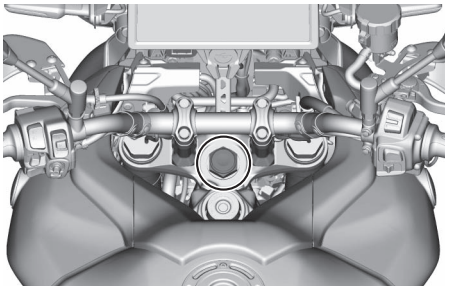
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当
- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA23660

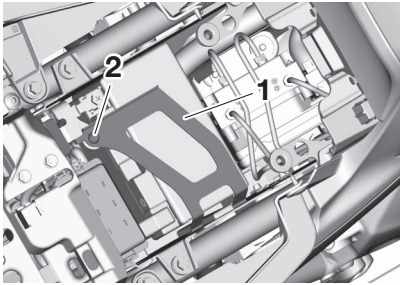
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。**

JAU93260

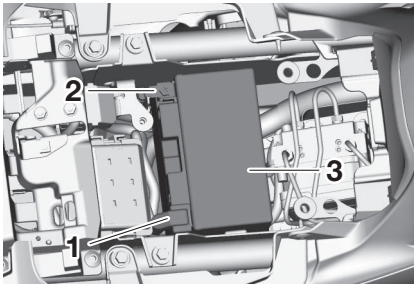
バッテリーの取り外し

1. ライダーシートとライダーシートハイトアジャスターを取り外します。(5-32 ページ参照)
2. ボルトを外し、バッテリーホルダーを取り外します。



1. バッテリーホルダー
2. ボルト

3. −(マイナス)側リード線を外し、次に +(プラス)側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. ＋リード線
2. −リード線
3. バッテリー

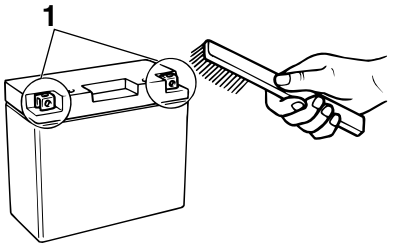
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

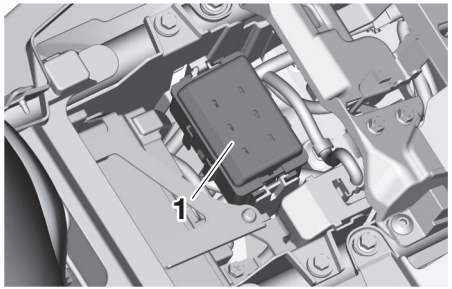


1. ターミナル

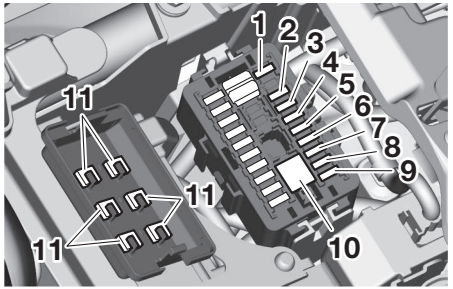
JAU92741

ヒューズ交換

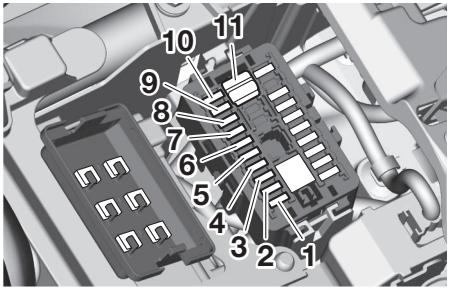
ヒューズボックスは、ライダーシートの下にあります。(5-32 ページ参照)



1. ヒューズボックス



1. ブレーキランプヒューズ
2. イグニッションヒューズ 2
3. シグナルヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. ヘッドライトヒューズ
6. ABS ECU ヒューズ
7. フューエルインジェクションヒューズ
8. 電子制御スロットルバルブヒューズ
9. バックアップヒューズ 2
10. メインヒューズ
11. スペアヒューズ



1. ABS モーターヒューズ
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. ラジエターファンモーターヒューズ
4. アクセサリーヒューズ 2
5. DC ターミナルヒューズ 1
6. アクセサリーヒューズ
7. バックアップヒューズ
8. SCU ヒューズ
9. ヒーターヒューズ
10. クルーズコントロールヒューズ
11. ヒューズプラー

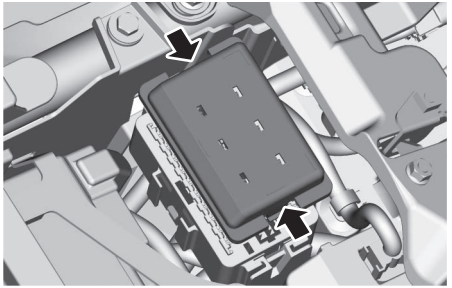
ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

要　点

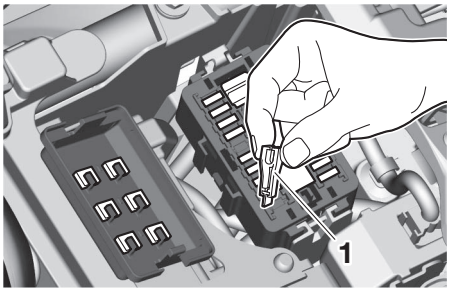
- スペアヒューズは、ヒューズボックスカバーの裏側にあります。
- ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。

2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。



3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



1. ヒューズプラー

規定ヒューズ：
DC ターミナル 1:
2.0 A
メイン :
50.0 A
アクセサリー :
2.0 A
アクセサリー 2:
5.0 A
ヘッドライト :
7.5 A
ブレーキランプ :
2.0 A
シグナル :
7.5 A
イグニッション :
10.0 A
イグニッション 2:
7.5 A
ラジエターファンモーター :
15.0 A
ヒーター :
7.5 A
ABS モーター :
30.0 A
ABS ECU:
7.5 A
SCU:
7.5 A
フューエルインジェクション :
7.5 A
ABS ソレノイド :
15.0 A
クルーズコントロール :
2.0 A
バックアップ :
7.5 A
バックアップ 2:
15.0 A
電子制御スロットルバルブ :
7.5 A

4. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
6. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

JCA12862

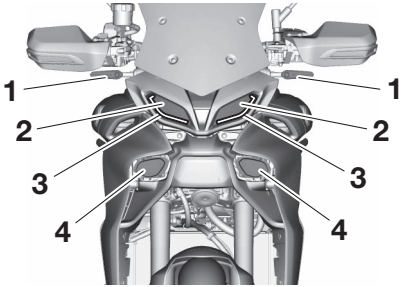
注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**

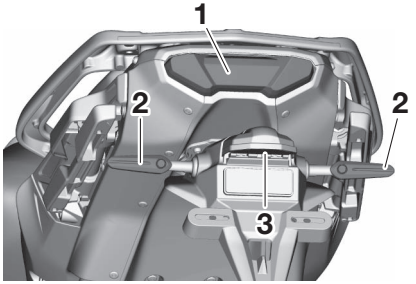
● 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. 方向指示灯（前）
2. コーナリングライト
3. マーカーランプ
4. ヘッドライト



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-14 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

8

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

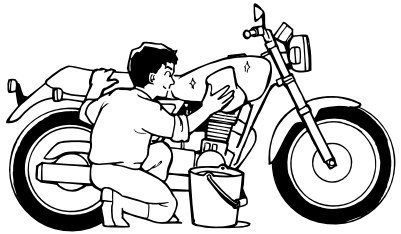
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27796

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。**

9

中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点
- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警 告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU98590

ウインドスクリーンの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドスクリーンの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA22090

⚠警 告

ウインドスクリーンとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA28210

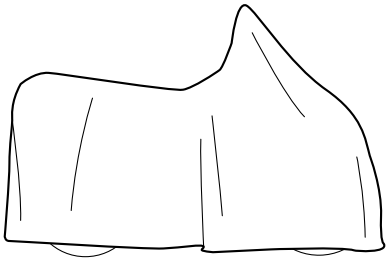
注 意

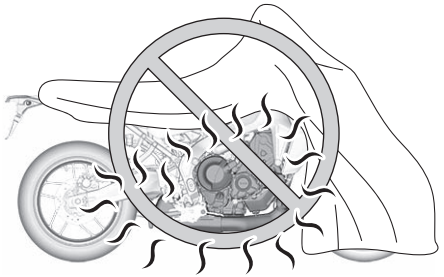
- **ウインドスクリーンにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドスクリーンは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索



寸法 :
全長 :
2175 mm
全幅 :
885 mm
全高 :
1430/1470 mm
シート高 :
820/835 mm
軸間距離 :
1500 mm
最低地上高 :
135 mm

重量 :
車両重量 :
223 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
最小回転半径 :
3.1 m

エンジン :
行程 :
4 ストローク
冷却方式 :
水冷
動弁機構 :
DOHC
配列 :
直列
気筒数 :
3 気筒
総排気量 :
888 cm³

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式ダブルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
120/70ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32F

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
180/55ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄 :
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32R

動力伝達機構 :
1 速 :
2.571 (36/14)
2 速 :
1.947 (37/19)
3 速 :
1.619 (34/21)
4 速 :
1.380 (29/21)
5 速 :
1.190 (25/21)
6 速 :
1.037 (28/27)

エレクトリカル :
電圧 :
12V

バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED
ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
5.0 W
マーカーランプ :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

製品仕様

エンジンオイル量 :

オイル交換時 :
2.80 L

オイルフィルター取り外し時 :
3.20 L

冷却水容量 :

リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.28 L

ラジエターと全ての経路 :
1.72 L

バッテリー :

バッテリー型式 :
YTZ10S

バッテリー容量 :
12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ :

メーカー / 型式 :
NGK/LMAR9A-9

プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

JAU36644

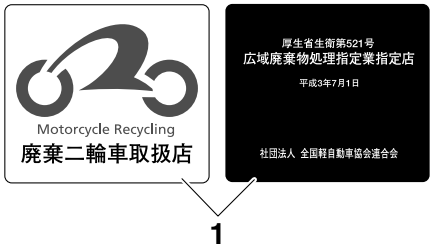
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



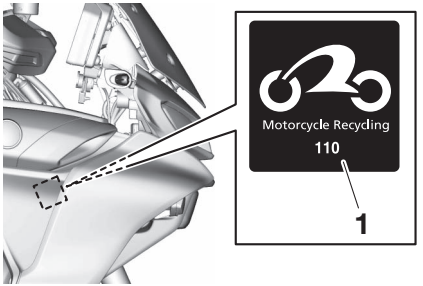
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

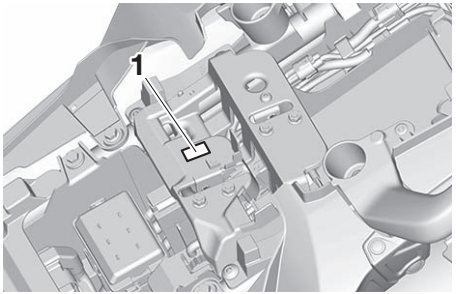
QQS-CLT-000-BLG

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、ライダーシート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

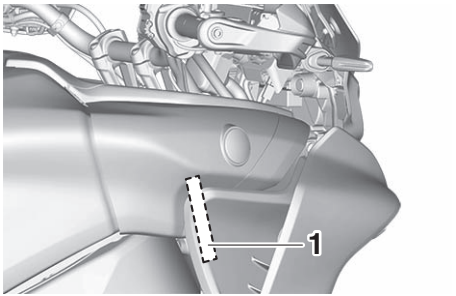
あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
TRACER9 GT+

モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

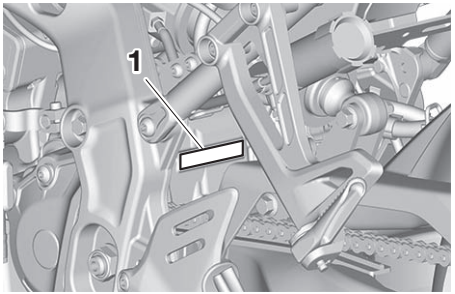


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

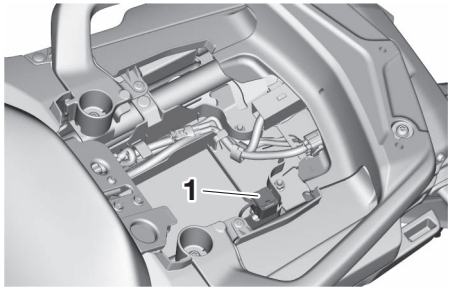


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

ユーザー情報

JAUA1210

車両情報の記録に関して
これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。
https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法
この車両に搭載されているコンピューターは、次の 3 種類の車両情報を記録しています。
1）車体番号
2）エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報
記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的
当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。
1）適切なメンテナンスや故障探求のため
2）適正な保証修理判定のため
3）製品の研究開発
4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため
5）その他の事業目的を達成するため
6）法律や規則に基づいて要求された場合

車両情報の提供に関して
利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および契約者会社に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口
車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。
ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

索引

あ
アダプティブクルーズコントロール（ACC）システムの操作 3-5
ACC（アダプティブクルーズコントロール）システム 3-1
アダプティブクルーズコントロールスイッチ 5-4
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 9-3
アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 9-2
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 8-12
アンチロックブレーキシステム（ABS） 3-9

い
ETC コネクター 5-41
イグニッションサーキットカットオフシステム 5-42
イモビライザーシステム 5-1

う
ウインドスクリーン 5-37
ウインドスクリーンの取り扱い 9-2
運行において異常が認められた箇所の点検 8-17

え
ACC システム作動中のライダー介入リクエスト表示 3-5
ABS 警告灯 5-6
エアクリーナーエレメントの交換 8-5
SCS（スライドコントロールシステム） 3-14
SUS（電子制御サスペンション） 3-14
LIF（リフトコントロールシステム） 3-14
エンジンオイル 8-2
エンジン警告灯 5-6
エンジン始動 7-1
エンジンのかかり具合、異音の点検 8-3

か
環境・住民の方との調和のために 1-6

き
キーの取り扱い 5-1
ギヤチェンジのしかた 7-2
クイックシフター 3-14

く
クラッチ 8-7

け
警告灯と表示灯 5-5
原動機番号 11-3

こ
コーナリングライト 5-42
故障診断コネクター 11-3
小物入れ 5-37

さ
サービスツール 8-2
サービスマニュアル（別売）の紹介 11-2
サイドケースホルダー 5-38
サイドスタンド 5-42

し
シート 5-32
シフトタイミングインジケーターランプ 5-7
シフトペダル 5-30
車体各部の給油脂状態の点検 8-12
車台番号 11-2
車両情報 11-2
車両情報の記録に関して 11-4
車両の特徴 3-1
ジョイスティック／ホームボタン 5-4
初期設定 4-3
書類入れ 5-36

す
スターター／エンジンストップスイッチ 5-4
スタビリティコントロールシステム 3-12
スタビリティコントロール表示灯 5-7
スマートフィーチャー 4-1

せ
接続エラーが発生したときは 4-9
洗車 9-1

た
タイヤ 8-5

ち
駐車 7-4

て
TCS（トラクションコントロールシステム） 3-13
DC コネクター 5-40
ディスプレイ 5-8

12

低速、加速の状態の点検.....8-4
点検整備の実施.....8-1
電話.....4-8
と
灯火装置および方向指示灯の点検 8-16
ドライブチェーン.....8-10
ドライブチェーンの給油.....8-11
な
ナビゲーションシステム：
Garmin Motorize.....4-7
ならし運転.....7-1
に
荷掛けフック.....5-40
日常点検箇所／点検内容.....6-1
日常点検の実施.....6-1
二輪車を廃棄する場合は？.....11-1
ね
燃料.....5-32
は
ハザードスイッチ.....5-4
バックミラー.....8-11
バッテリー.....8-12
ハンドル位置の調整.....5-38
ハンドルスイッチ.....5-3
ひ
BC（ブレーキコントロール）.....3-14
PWR（パワーデリバリーモード）.....3-13
ヒューズ交換.....8-14
ふ
フューエルタンクキャップ.....5-31
ブレーキ.....7-3
ブレーキ液量の点検.....8-9
ブレーキシステム.....3-9
ブレーキパッドの点検.....8-8
ブレーキランプスイッチの点検.....8-8
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検.....8-8
ブレーキレバーの握り調整.....5-40
フロントフォークおよび
リヤクッションの調整.....5-38
へ
ヘッドライト上向き表示灯.....5-6
ヘッドライト上下切り替え／
パッシングライトスイッチ.....5-3
ヘルメットホルダー.....5-36
ほ
ホーンスイッチ.....5-4
方向指示器スイッチ.....5-4
方向指示器表示灯.....5-5
保管のしかた.....9-3
歩行者と他の車のために.....1-5
補助システム警告灯.....5-8
ポップアップメニューシステム.....5-14
み
ミリ波レーダー.....3-1
め
メインスイッチ.....5-2
も
モデルラベル.....11-2
ゆ
USB ジャック.....5-41
UBS 警告灯.....5-6
油圧・冷却水温警告灯.....5-7
ユニファイドブレーキシステム
（UBS）.....3-9
ら
ライダーシートの高さ調整.....5-33
ライダーフートレスト位置の調整 ...5-36
れ
レーダー連携 UBS.....3-10
冷却水.....8-4
わ
YRC
（ヤマハライドコントロール）.....3-12
YRC settings.....5-26

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-101-BLG

PRINTED IN JAPAN
2024.05-0.3×1 CR (J)